

科目名	多文化共生論特別研究A
曜日・講時	月曜2限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	目黒 志帆美、佐藤 透
科目ナンバリング	KD11210
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	多文化共生論研究の実践 (12)
授業の目的と概要	多文化共生論研究の具体的方法論を習得し、論述の作法を学ぶ。学生個々のテーマに即して指導教員が個別指導をする。
学修の到達目標	①多文化共生論の実際の研究方法を理解する。②それぞれの学生のテーマに基づいて、論述を展開するための実践的な方法を学ぶ。
授業の目的と概要-授業計画	個々の学生が現在取り組んでいるテーマについて教員と討論をして、理解と推論を深める。
授業の目的と概要-1	オリエンテーションと予定の作成
授業の目的と概要-2	個別またはグループによる研究指導 (1)
授業の目的と概要-3	個別またはグループによる研究指導 (2)
授業の目的と概要-4	個別またはグループによる研究指導 (3)
授業の目的と概要-5	個別またはグループによる研究指導 (4)
授業の目的と概要-6	個別またはグループによる研究指導 (5)
授業の目的と概要-7	個別またはグループによる研究指導 (6)
授業の目的と概要-8	個別またはグループによる研究指導 (7)
授業の目的と概要-9	個別またはグループによる研究指導 (8)
授業の目的と概要-10	個別またはグループによる研究指導 (9)

授業の目的と概要-11	個別またはグループによる研究指導(10)
授業の目的と概要-12	個別またはグループによる研究指導(11)
授業の目的と概要-13	個別またはグループによる研究指導(12)
授業の目的と概要-14	個別またはグループによる研究指導(13)
授業の目的と概要-15	個別またはグループによる研究指導(14)
授業の目的と概要-試験	教員とのテーマごとの分析や検討の状況などで試験に代える。
実務・実践的授業	
成績評価方法	平常点による。
教科書および参考書	授業中に適宜指示する。
授業時間外学修	研究上の問題点を整理して提示する準備を整える。教員と共同の検討の成果を研究にフィードバックさせる。
その他	事前に検討するテーマと問題点を教員に伝えること。オフィスアワーはメールでの予約制とする。質問はメールでも受け付ける。
更新日付	2026. 2. 23.
<small>1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。</small>	

科目名	多文化共生論特別講義A
曜日・講時	月曜3限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC）
単位数	2単位
担当教員	目黒 志帆美、佐藤 透
科目ナンバリング	KD11310
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	多文化共生論の理論と実際（12）
授業の目的と概要	多文化共生論的アプローチの方法論的基礎を修得させるとともに、講座教員が、個別的・具体的な諸問題に取り組む際の研究の進め方を指導する。
学修の到達目標	①多文化共生論という学問について、その研究対象、研究方法の多様性を理解する。②個別的・具体的な問題に対処する方法を学ぶ。
授業の目的と概要-授業計画	教員が以下のテーマに基づいて講義を行う。
授業の目的と概要-1	オリエンテーション
授業の目的と概要-2	共生思想を探る（1）佐藤透
授業の目的と概要-3	共生思想を探る（2）佐藤透
授業の目的と概要-4	共生思想を探る（3）佐藤透
授業の目的と概要-5	共生思想を探る（4）佐藤透
授業の目的と概要-6	共生思想を探る（5）佐藤透
授業の目的と概要-7	共生思想を探る（6）佐藤透
授業の目的と概要-8	共生思想を探る（7）佐藤透
授業の目的と概要-9	共生思想を探る（8）佐藤透
授業の目的と概要-10	共生思想を探る（9）佐藤透

授業の目的と概要-11	共生思想を探る (10) 佐藤透
授業の目的と概要-12	共生思想を探る (11) 佐藤透
授業の目的と概要-13	共生思想を探る (12) 佐藤透
授業の目的と概要-14	総括 (1)
授業の目的と概要-15	総括 (2)
授業の目的と概要-試験	講義で関心を抱いたテーマについて、所定のレポートを提出することで試験に代える。
実務・実践的授業	
成績評価方法	レポートによる。
教科書および参考書	授業中に適宜指示する。
授業時間外学修	自分の研究にどのように応用できるかという観点から、配布される資料や自分のノートをよく読み、問題意識を持ち質問などを考える。
その他	レポートについては、引用の箇所と出典を明示するなど、研究倫理に準拠する内容と様式を求める。オフィスアワーはメールでの予約制とする。質問はメールでも受け付ける。
更新日付	2026.3.2.
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	多文化共生論特別演習A
曜日・講時	月曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC）
単位数	2単位
担当教員	目黒 志帆美、佐藤 透
科目ナンバリング	KD11410
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	多文化共生論の基礎と発展(12)
授業の目的と概要	多文化共生論という学問の特質、研究対象、研究方法の基礎を学び、受講者それぞれの問題意識をもとに、教員全員による研究・論文作成の指導を受ける。
学修の到達目標	① 学問とは何かを、また学術論文を書くとはどういう行為であるかを理解する。② 多文化共生論という学問の特質を理解する。③ 問題の設定のしかたを学ぶ。④ 資料の収集や扱いかたを学ぶ。⑤ 論文の作成に必要なさまざまな知識を修得する。
授業の目的と概要-授業計画	1名ないし数名の学生がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて教員・学生全員で質問・討論を行う。
授業の目的と概要-1	オリエンテーションと発表予定の作成
授業の目的と概要-2	修士/博士論文執筆状況の発表（前期2年次、後期3年次）
授業の目的と概要-3	修士論文執筆状況の発表（前期2年次）
授業の目的と概要-4	研究テーマの発表（1）（前期1年次）Presentations by MC first-year students
授業の目的と概要-5	研究テーマの発表（2）（前期1年次）
授業の目的と概要-6	修士論文仮題目の発表（1）（前期2年次）
授業の目的と概要-7	修士論文仮題目の発表（2）（前期2年次）
授業の目的と概要-8	研究題目の発表（1）（前期1年次）
授業の目的と概要-9	研究題目の発表（2）（前期1年次）
授業の目的と概要-10	研究内容と進捗状況の紹介（研究生）

授業の目的と概要-11	修士論文構想発表会の予行演習（前期2年次）
授業の目的と概要-12	修士論文構想発表会の予行演習（前期2年次）
授業の目的と概要-13	研究題目発表会の予行演習（前期1年次）
授業の目的と概要-14	博士論文草稿発表会の予行演習（後期3年次）
授業の目的と概要-15	博士論文草稿発表会の予行演習（後期3年次）
授業の目的と概要-試験	発表や討論の状況やレポートなどで試験に代える。
実務・実践的授業	
成績評価方法	発表の内容や討論への関わりかたにより評価する。発表テーマについての個別のレポートによることもある。
教科書および参考書	授業中に適宜指示する。
授業時間外学修	自分の発表の準備を整える。発表後の質問や討論を研究に反映させる。他の学生の発表原稿を事前に読み、質問と議論の準備をする。
その他	発表の1週間前に原稿を演習に参加する教員と学生にメール添付ファイルで配布すること。オフィスアワーはメールでの予約制とする。質問はメールでも受け付ける。
更新日付	2026. 2. 23.
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	応用言語研究特別講義A
曜日・講時	月曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC）
単位数	2単位
担当教員	菅谷 奈津恵
科目ナンバリング	KIC-LIN706J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	論文作成ワークショップA / Workshop on writing a research paper
授業の目的と概要	研究論文の執筆作法、投稿作法を実践的に学ぶ。受講生自身の草稿に対してピアレビューを行い、論文を完成させる。 Students will learn how to write and publish journal papers. They will work on their own drafts and engage in peer review to complete a research paper.
学修の到達目標	1. 論文の基本的な執筆作法・投稿作法が説明できる。 2. 論文を批判的に読み、執筆者に建設的なフィードバックを行うことができる。 3. フィードバックを踏まえて、研究論文を修正することができる。 After completing the course, students will be able to: - explain how to write and publish research papers. - critically read research papers and give effective feedback to authors. - address the reviewers' comments and revise their own paper.
授業の目的と概要-授業計画	演習形式で実施する。The course will be conducted in a workshop style.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション Course orientation
授業の目的と概要-2	論文の投稿と査読システム Submission and review process
授業の目的と概要-3	博士号取得の計画 Planning a timeline for PhD
授業の目的と概要-4	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-5	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-6	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-7	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-8	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-9	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-10	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review

授業の目的と概要-11	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-12	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-13	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-14	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-15	まとめ Summary
授業の目的と概要-試験	試験は実施しない。There are no exams.
実務・実践的授業	
成績評価方法	課題1: 博士号取得までの計画 10%、課題2: 発表(草稿の提出と査読への回答) 30%、課題3: 査読30% 課題4: 修正論文の提出10%、授業参加度20% Assignment 1: PhD timeline 10%, Assignment 2: Presentation 30%, Assignment 3: Giving review comments 30%, Assignment 4: Revision of a paper 10%, Class participation: 20%
教科書および参考書	参考書 References ・ Estelle, P. & Derek, P. (2022) How to get a PhD: A handbook for students and their supervisors. (7th ed.) Berkshire, England: Open University Press (*第4版の和訳: 角谷快彦訳 (2010) 『博士号のとり方: 学生と指導教官のための実践ハンドブック』 出版サポート大樹舎) ・ Langham, C. (2011) 『国際論文English査読・執筆ハンドブック』 医歯薬出版
授業時間外学修	授業時間外の課題の提出にはGoogle Classroomを用いる。Students submit assignments via Google Classroom.
その他	試験は実施しない。There are no exams.
更新日付	2024/02/16 16:59:42
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。	

科目名	ヨーロッパ・アメリカ研究特別研究A
曜日・講時	月曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	寺本 成彦、小原 豊志
科目ナンバリング	K1C-ARS702J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	ヨーロッパ・アメリカ研究の学知と方法 (2026-1) The Discipline for Advanced European and American Studies (2026-1)
授業の目的と概要	ヨーロッパ・アメリカ研究の学知と方法について指導教員と意見交換を交わすことにより、修士論文で得た新たな知見をふまえ、自らの研究テーマをさらに掘り下げて追究できるようにする。 The students professionally consider the issues on their research topics and related matters, and they will get individual research guidance from their supervisors to prepare for their doctoral theses.
学修の到達目標	指導教員との意見交換を繰り返しおこなうことによって、完成度の高い博士論文を作成する能力を身につける。 The students will master the necessary skills and ability to generate high-level doctoral theses through the discussions with their supervisors.
授業の目的と概要-授業計画	1 年次学生は研究テーマの確定のため、2年次学生および3年次学生は博士論文の作成、完成に向け、研究科の学位取得スケジュールに合わせた指導をおこなう。 The supervisors provide a guidance (1) for DC first-year students to determine their research topics (2) for DC second-year and third-year students to generate doctoral theses in accord with the degree program. 授業の目的と概要-1 オリエンテーション Orientation 授業の目的と概要-2 研究テーマに関する報告と討論 (1) Guidance and discussion on the students' research topics (1) 授業の目的と概要-3 研究テーマに関する報告と討論 (2) Guidance and discussion on the students' research topics (2) 授業の目的と概要-4 研究テーマに関する報告と討論 (3) Guidance and discussion on the students' research topics (3) 授業の目的と概要-5 研究テーマに関する報告と討論 (4) Guidance and discussion on the students' research topics (4) 授業の目的と概要-6 博士論文の構成に関する報告と討論 (1) Guidance and discussion on the composition of the students' doctoral theses (1) 授業の目的と概要-7 博士論文の構成に関する報告と討論 (2) Guidance and discussion on the composition of the students' doctoral theses (2) 授業の目的と概要-8 博士論文の構成に関する報告と討論 (3) Guidance and discussion on the composition of the students' doctoral theses (3) 授業の目的と概要-9 博士論文の構成に関する報告と討論 (4) Guidance and discussion on the composition of the students' doctoral theses (4) 授業の目的と概要-10 博士論文の各章の内容に関する報告と討論 (1) Guidance and discussion on the content of the students' doctoral theses (1) 授業の目的と概要-11 博士論文の各章の内容に関する報告と討論 (2) Guidance and discussion on the content of the students' doctoral theses (2) 授業の目的と概要-12 博士論文の各章の内容に関する報告と討論 (3) Guidance and discussion on the content of the students' doctoral theses (3) 授業の目的と概要-13 博士論文の各章の内容に関する報告と討論 (4) Guidance and discussion on the content of the students' doctoral theses (4) 授業の目的と概要-14

	<p>総括（１） Summary 授業の目的と概要-15 総括（２） Summary 授業の目的と概要-試験 筆記試験は実施しない。 No paper test will be held.</p>
授業の目的と概要-1	オリエンテーション Orientation
授業の目的と概要-2	研究テーマに関する報告と討論（１） Guidance and discussion on the students' research topics (1)
授業の目的と概要-3	研究テーマに関する報告と討論（２） Guidance and discussion on the students' research topics (2)
授業の目的と概要-4	研究テーマに関する報告と討論（３） Guidance and discussion on the students' research topics (3)
授業の目的と概要-5	研究テーマに関する報告と討論（４） Guidance and discussion on the students' research topics (4)
授業の目的と概要-6	博士論文の構成に関する報告と討論（１） Guidance and discussion on the composition of the students' doctoral theses (1)
授業の目的と概要-7	博士論文の構成に関する報告と討論（２） Guidance and discussion on the composition of the students' doctoral theses (2)
授業の目的と概要-8	博士論文の構成に関する報告と討論（３） Guidance and discussion on the composition of the students' doctoral theses (3)
授業の目的と概要-9	博士論文の構成に関する報告と討論（４） Guidance and discussion on the composition of the students' doctoral theses (4)
授業の目的と概要-10	博士論文の各章の内容に関する報告と討論（１） Guidance and discussion on the content of the students' doctoral theses (1)
授業の目的と概要-11	博士論文の各章の内容に関する報告と討論（２） Guidance and discussion on the content of the students' doctoral theses (2)
授業の目的と概要-12	博士論文の各章の内容に関する報告と討論（３） Guidance and discussion on the content of the students' doctoral theses (3)
授業の目的と概要-13	博士論文の各章の内容に関する報告と討論（４） Guidance and discussion on the content of the students' doctoral theses (4)
授業の目的と概要-14	総括（１） Summary (1)
授業の目的と概要-15	総括（２） Summary (2)
授業の目的と概要-試験	筆記試験は実施しない。 No paper test will be held.
実務・実践的授業	
成績評価方法	各受講生の研究の進捗状況および研究の内容の深化を総合的に評価する。 Evaluation will be based on the progress of each student's research.
教科書および参考書	教科書および参考書 教科書は使用しない。参考書は適宜、授業のなかで示す。 No textbooks will be used, although some literature might be recommended in the course if necessary.
授業時間外学修	授業中に課題等を随時指示する。 The students will make necessary preparation for the course.
その他	オフィスアワーについては別途提示する。 Office hours will be announced separately.
更新日付	2026年3月1日
<p>1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。</p>	

科目名	応用言語研究特別演習 A
曜日・講時	月曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	J E O N G H Y E O N J E O N G
科目ナンバリング	KIC-LIN704J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	応用言語研究演習 (A) Advanced Seminar in Applied Linguistics A
授業の目的と概要	応用言語研究分野における研究、口頭発表、論文作成のための高度な知識と方法を習得する。 This course aims to get advanced knowledge and method for research, presentation and thesis in applied linguistics.
学修の到達目標	応用言語研究分野において研究、口頭発表、論文作成するための高度な力を身につける。 To get advanced ability for research, presentation and thesis in applied linguistics.
授業の目的と概要-授業計画	学生の研究テーマに応じて、個別的指導、集団的指導、各種発表会を適宜組み合わせることで授業を進め、応用言語研究分野における研究、口頭発表、論文作成のための高度な知識と方法を習得をめざす。 Through individual and collective instructions and presentations, this course aims to get advanced knowledge and method for research, presentation and thesis in applied linguistics.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション orientation
授業の目的と概要-2	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法 (1) advanced knowledge and method for research in applied linguistics (1)
授業の目的と概要-3	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法 (2) advanced knowledge and method for research in applied linguistics (2)
授業の目的と概要-4	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法 (3) advanced knowledge and method for research in applied linguistics (3)
授業の目的と概要-5	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法 (4) advanced knowledge and method for research in applied linguistics (4)
授業の目的と概要-6	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法 (5) advanced knowledge and method for research in applied linguistics (5)
授業の目的と概要-7	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法 (6) advanced knowledge and method for research in applied linguistics (6)
授業の目的と概要-8	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法 (7) advanced knowledge and method for research in applied linguistics (7)
授業の目的と概要-9	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法 (8) advanced knowledge and method for research in applied linguistics (8)
授業の目的と概要-10	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法 (9) advanced knowledge and method for research in applied linguistics (9)

授業の目的と概要-11	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(10) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(10)
授業の目的と概要-12	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(11) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(11)
授業の目的と概要-13	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(12) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(12)
授業の目的と概要-14	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(13) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(13)
授業の目的と概要-15	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(14) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(14)
授業の目的と概要-試験	実施しない。 None
実務・実践的授業	
成績評価方法	授業での発表や討議等によって総合的に判断する。 On the basis of activities
教科書および参考書	必要に応じて指示する。 To set if necessary
授業時間外学修	必要に応じて指示する。 To set if necessary
その他	
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	環境資源政策論特別講義A
曜日・講時	火曜3限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	青木 俊明、佐藤 正弘
科目ナンバリング	K1C-0S0706J
使用言語	日本語および英語
メディア授業科目	
授業題目	環境資源政策論特別講義A Special Lectures on Environment and Resources Policy A
授業の目的と概要	<p>環境資源政策に関する研究を進める上で重要な文献や事例を取り上げ、それらの背景や問題意識、手法上の特徴、意義や課題等について調査・検証する。取り上げる文献及び事例については、履修者の人数や関心に応じて、教員ないし学生の提案に基づいて選定する。特別講義B においては、環境資源政策と技術開発の関わり等について取り上げる予定。</p> <p>This course examines the backgrounds, methodologies, significance, and challenges of the literature and cases that are important in research on environment and resources policy. The literature and cases will be selected based on lecturers' suggestions or students' proposals considering the number and interests of the students. The Special Lectures A will deal with the issues on the influences of technology development and resources policy.</p>
学修の到達目標	<p>自己の研究に関連する文献を読み、その長所や短所を適切に説明できるようになること。これにより、優れた研究論文に対する評価軸を修得する。Students should be able to read literature related to their own research and be able to adequately explain its strengths and weaknesses. In this way, students will acquire an evaluation axis for excellent research papers.</p>
授業の目的と概要-授業計画	<p>環境資源政策に関する研究を進める上で重要な文献や事例を取り上げ、それらの背景や問題意識、手法上の特徴、意義や課題等について調査・検証する。取り上げる文献及び事例については、履修者の人数や関心に応じて、教員ないし学生の提案に基づいて選定する。特別講義B においては、環境資源政策と技術開発の関わり等について取り上げる予定。</p> <p>This course examines the backgrounds, methodologies, significance, and challenges of the literature and cases that are important in research on environment and resources policy. The literature and cases will be selected based on lecturers' suggestions or students' proposals considering the number and interests of the students. The Special Lectures A will deal with the issues on the influences of technology development and resources policy.</p>
授業の目的と概要-1	イントロダクション Introduction
授業の目的と概要-2	基礎文献の購読 Basic literature
授業の目的と概要-3	基礎文献の購読 Basic literature
授業の目的と概要-4	基礎文献の購読 Basic literature
授業の目的と概要-5	対象事例の選定・調査内容の設定 Selection of cases and research topics
授業の目的と概要-6	関連文献の購読・比較検討 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-7	関連文献の購読・比較検討 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-8	関連文献の購読・比較検討 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-9	事例研究の中間発表 Interim presentations on case studies
授業の目的と概要-10	関連文献の購読・比較考察 Comparative analysis of related literature

授業の目的と概要-11	関連文献の講読・比較考察 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-12	関連文献の講読・比較考察 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-13	研究成果の発表 Presentations
授業の目的と概要-14	研究成果の発表 Presentations
授業の目的と概要-15	研究成果の発表 Presentations
授業の目的と概要-試験	試験は行わない。No tests will be conducted.
実務・実践的授業	
成績評価方法	授業への出席・参加 (20%)、発表 (30%)、学期末レポート (50%) Participation (20%), Presentation (30%), Term paper (50%)
教科書および参考書	授業において適宜参考文献リストを配布。 Reference lists will be shown in the class as needed.
授業時間外学修	積極的に他の研究者と議論を行うこと。直接的には関係しない分野の文献も含め、できるだけ多くの文献を読むこと。さらに、最新の分析手法やそれに関する知見についても、十分に修得しておくこと。It is desirable to actively engage in discussions with other researchers. Read as much literature as possible, including literature from fields not directly related to your field. In addition, students should be well versed in the latest analytical methods and knowledge about them.
その他	特になし NA
更新日付	2024/02/19 12:12:30
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	現代日本メディア・ジェンダー研究特別研究A
曜日・講時	火曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	妙木 忍
科目ナンバリング	KIC-ARS708J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	現代日本におけるメディア・ジェンダー研究の探究 Exploration of Media and Gender Studies in Contemporary Japan
授業の目的と概要	指導教員の指導のもとで、自身の研究を遂行するための力を身に付けることを目的とする。 The purpose of this course is to acquire the skills to conduct research under the guidance of a supervisor.
学修の到達目標	自立して研究をおこなうための能力を身に付ける。 This course is designed to help students develop the ability to conduct research independently.
授業の目的と概要-授業計画	指導教員の指導のもとで、自身の研究を進め、質を高めていく。 This course aims to help students advance their own research and improve its quality under the guidance of a supervisor.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション Orientation
授業の目的と概要-2	研究指導 (1) Research supervision (1)
授業の目的と概要-3	研究指導 (2) Research supervision (2)
授業の目的と概要-4	研究指導 (3) Research supervision (3)
授業の目的と概要-5	研究指導 (4) Research supervision (4)
授業の目的と概要-6	研究指導 (5) Research supervision (5)
授業の目的と概要-7	研究指導 (6) Research supervision (6)
授業の目的と概要-8	研究指導 (7) Research supervision (7)
授業の目的と概要-9	研究指導 (8) Research supervision (8)
授業の目的と概要-10	研究指導 (9) Research supervision (9)

授業の目的と概要-11	研究指導 (10) Research supervision (10)
授業の目的と概要-12	研究指導 (11) Research supervision (11)
授業の目的と概要-13	研究指導 (12) Research supervision (12)
授業の目的と概要-14	研究指導 (13) Research supervision (13)
授業の目的と概要-15	研究指導 (14) Research supervision (14)
授業の目的と概要-試験	試験はおこなわない。 No examination
実務・実践的授業	
成績評価方法	研究の進捗状況および討論内容に基づいて総合的に評価する。 Participants will be comprehensively evaluated based on the progress of their research and the content of their discussions.
教科書および参考書	参考文献は適宜紹介する。 Reference materials will be introduced as necessary.
授業時間外学修	自身の研究に必要な準備をおこなう。 Students are required to prepare what is necessary for their own research.
その他	
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	ヨーロッパ・アメリカ研究特別講義A
曜日・講時	火曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	寺本 成彦、小原 豊志
科目ナンバリング	K1C-ARS703J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	ヨーロッパ・アメリカ文化の総合的・学際的把握 (2026-1) Comprehensive and Interdisciplinary Understanding of European/American Culture (2026-1)
授業の目的と概要	文学および歴史学を専門とする教員によるオムニバス方式の講義をつうじて、ヨーロッパ・アメリカ地域が個別的に直面してきた諸問題を比較検討することにより、広い意味でのヨーロッパ・アメリカ文化の特質を解明する。 In this course, lecturers who study literature and history elucidate the characteristics of European/American culture with a comparative perspective.
学修の到達目標	総合的、学際的なアプローチをつうじて、過去および現在におけるヨーロッパ・アメリカ文化の特質を把握すること。 In this course the students will get a deep understanding on the characteristics of European/American culture.
授業の目的と概要-授業計画	ヨーロッパ・アメリカ文化に関する共通のテーマのもとに、各教員の専門性を生かしたオムニバス方式でおこなう。 This course will be done in omnibus form.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション Orientation
授業の目的と概要-2	講義と議論 (1-1) Lecture and discussion on the topic (1-1)
授業の目的と概要-3	講義と議論 (1-2) Lecture and discussion on the topic (1-2)
授業の目的と概要-4	講義と議論 (1-3) Lecture and discussion on the topic (1-3)
授業の目的と概要-5	講義と議論 (2-1) Lecture and discussion on the topic (2-1)
授業の目的と概要-6	講義と議論 (2-2) Lecture and discussion on the topic (2-2)
授業の目的と概要-7	講義と議論 (2-3) Lecture and discussion on the topic (2-3)
授業の目的と概要-8	中間総括 Interim Summary
授業の目的と概要-9	講義と議論 (3-1) Lecture and discussion on the topic (3-1)
授業の目的と概要-10	講義と議論 (3-2) Lecture and discussion on the topic (3-2)

授業の目的と概要-11	講義と議論 (3-3) Lecture and discussion on the topic (3-3)
授業の目的と概要-12	講義と議論 (4-1) Lecture and discussion on the topic (4-1)
授業の目的と概要-13	講義と議論 (4-2) Lecture and discussion on the topic (4-2)
授業の目的と概要-14	講義と議論 (4-3) Lecture and discussion on the topic (4-3)
授業の目的と概要-15	総括 Summary
授業の目的と概要-試験	筆記試験は行わない。 No paper test will be held.
実務・実践的授業	
成績評価方法	各教員が課すレポートを総合的に判断する。 Evaluation will be determined by assigned reports.
教科書および参考書	適宜、授業のなかで示す。 Necessary literature will be designated in the course by each instructor.
授業時間外学修	授業中に課題等を随時指示する。 Necessary task or work will be designated in the course by each instructor.
その他	フィスアワーについては別途提示する。 Office hours will be announced separately.
更新日付	2026年3月1日
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	国際政治経済論特別研究A
曜日・講時	火曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC）
単位数	2単位
担当教員	大窪 和明
科目ナンバリング	KD12520
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	国際政治経済関係の応用研究A Advanced research on International Politics and Economics A
授業の目的と概要	国際政治関係、国際経済関係をテーマにした研究を行う受講生に対し、研究指導を行う。 Supervisions for students of the Department of International Politics and Economics.
学修の到達目標	受講生各自の研究が既に到達した進捗段階からさらに一段進み、その結果を論文としてまとめること。 Student are required to advance their research beyond what they have achieved, and expected to complete their own academic works.
授業の目的と概要-授業計画	研究内容に関する相談受け付け、問題点の指摘、指導を行い、研究の方向性を明確化する。 Discussions and consultations on the problems the students encountered, and the clarification of the directions of students' research.
授業の目的と概要-1	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-2	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-3	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-4	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-5	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-6	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-7	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-8	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-9	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-10	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.

授業の目的と概要-11	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-12	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-13	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-14	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-15	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-試験	なし。 N. A.
実務・実践的授業	
成績評価方法	研究の進捗度合いと研究結果をまとめた論文の完成度合い。 The progress of students' research and their academic works
教科書および参考書	特になし。 N. A.
授業時間外学修	研究作業と必要な分析手法の習得 Preparations for a class meeting and the writing up of academic works.
その他	特になし。 N. A.
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	言語科学研究特別研究A
曜日・講時	火曜6限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	中本 武志
科目ナンバリング	K1C-LIN702J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	言語科学研究のための個別指導 (1) Individual Tutoring in Language Research (1)
授業の目的と概要	各受講者あるいは受講者グループの研究トピックやそれに関連する事項について専門的な考察・検討を行う。 これにより、博士論文執筆や学会発表に向けて個別的な指導を受けることを目的とする。 In this course, the students professionally consider the issues on their research topics and related matters, and at the same time they will get individual research guidance from their supervisors to prepare for their doctoral theses and conference presentations.
学修の到達目標	受講者はこの授業を通して、各自の研究トピックや関連する事項についての理解を深め、文献調査・研究発表・博士論文執筆などの方法に熟達する。 In this course, the students will deepen their understanding of their own research topics and matters related to them, and master the necessary skills and ability for literature examination, conference presentation, writing doctoral theses, etc.
授業の目的と概要-授業計画	学期のはじめにスケジュールを発表する。 The schedule of the course will be announced at the beginning of the course.
授業の目的と概要-1	個別またはグループによる研究指導(1) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (1)
授業の目的と概要-2	個別またはグループによる研究指導(2) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (2)
授業の目的と概要-3	個別またはグループによる研究指導(3) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (3)
授業の目的と概要-4	個別またはグループによる研究指導(4) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (4)
授業の目的と概要-5	個別またはグループによる研究指導(5) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (5)
授業の目的と概要-6	個別またはグループによる研究指導(6) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (6)
授業の目的と概要-7	個別またはグループによる研究指導(7) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (7)
授業の目的と概要-8	個別またはグループによる研究指導(8) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (8)
授業の目的と概要-9	個別またはグループによる研究指導(9) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (9)
授業の目的と概要-10	個別またはグループによる研究指導(10) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (10)

授業の目的と概要-11	個別またはグループによる研究指導(11) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (11)
授業の目的と概要-12	個別またはグループによる研究指導(12) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (12)
授業の目的と概要-13	個別またはグループによる研究指導(13) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (13)
授業の目的と概要-14	個別またはグループによる研究指導(14) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (14)
授業の目的と概要-15	個別またはグループによる研究指導(15) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (15)
授業の目的と概要-試験	試験は行わない。 The students will have no examination.
実務・実践的授業	
成績評価方法	受講者各自の研究についての発表、関連文献の理解、討議への参加を総合的に評価する。 Evaluation will be based on each student's presentation of their research, understanding of the relevant literature, and participation in the discussion.
教科書および参考書	使用しない。必要な場合は授業中に指示する。 No textbooks will be used. Some literature might be recommended in the course if necessary.
授業時間外学修	学生は個別またはグループによる研究指導を受けるために必要な準備を行う。 The students will make necessary preparation for the course.
その他	なし Nothing
更新日付	2026/02/24 11:13:18
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	応用言語研究特別研究A
曜日・講時	火曜6限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目(DC)
単位数	2単位
担当教員	J E O N G H Y E O N J E O N G、菅谷 奈津恵
科目ナンバリング	K1C-LIN705J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	応用言語研究特別研究(A) Advanced Research in Applied Linguistics A
授業の目的と概要	応用言語研究分野における研究、口頭発表、論文作成のための高度な知識と方法を習得する。 This course aims to get advanced knowledge and method for research, presentation and thesis in applied linguistics.
学修の到達目標	応用言語研究分野において研究、口頭発表、論文作成するための高度な力を身につける。 To get advanced ability for research, presentation and thesis in applied linguistics.
授業の目的と概要-授業計画	学生の研究テーマに応じて、個別的指導、集団的指導、各種発表会を適宜組み合わせることで授業を進め、応用言語研究分野における研究、口頭発表、論文作成のための高度な知識と方法を習得をめざす。 Through individual and collective instructions and presentations, this course aims to get advanced knowledge and method for research, presentation and thesis in applied linguistics.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション orientation
授業の目的と概要-2	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(1) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(1)
授業の目的と概要-3	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(2) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(2)
授業の目的と概要-4	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(3) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(3)
授業の目的と概要-5	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(4) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(4)
授業の目的と概要-6	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(5) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(5)
授業の目的と概要-7	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(6) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(6)
授業の目的と概要-8	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(7) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(7)
授業の目的と概要-9	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(8) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(8)
授業の目的と概要-10	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(9) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(9)

授業の目的と概要-11	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(10) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(10)
授業の目的と概要-12	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(11) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(11)
授業の目的と概要-13	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(12) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(12)
授業の目的と概要-14	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(13) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(13)
授業の目的と概要-15	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(14) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(14)
授業の目的と概要-試験	実施しない。 None
実務・実践的授業	
成績評価方法	授業での発表や討議等によって総合的に判断する。 On the basis of activities
教科書および参考書	必要に応じて指示する。 To set if necessary
授業時間外学修	必要に応じて指示する。 To set if necessary
その他	
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	言語科学研究特別演習 A
曜日・講時	木曜2限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	中本 武志
科目ナンバリング	K10-LIN701J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	言語科学研究の方法論と実践 (1) Methodology and Practice in Language Sciences (1)
授業の目的と概要	受講者がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて参加者全員で討議する。これにより、言語科学分野における研究の方法論や発表の仕方などに習熟して、博士論文を完成し、各種学会で発表する能力を育む。 In this course, the students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and the others will discuss them. Thereby, the students will acquire the necessary methodology and skills to conduct research in language science and to present the results, to complete a doctoral thesis, and to make presentations at academic conferences.
学修の到達目標	受講者はこの授業を通して、主として次のような研究に必要な方法や技術を学ぶ。 1. 研究テーマを設定し、そのテーマに関する先行研究を批判的に検討すること。 2. 設定した問題に対する解決方法を論理的に構成すること。 3. 適切なデータを収集し、分析すること。 4. 研究結果をまとめ、説得力をもった発表を行うこと。 5. 他の受講者の発表を正確に理解し、批評的かつ建設的に評価すること。  In this course, the students will acquire the necessary methodology and skills to conduct research in language science, such as the following: 1. to set a research topic and to critically review previous works on the topic 2. to work out a way to solve issues on the research topic through logical argumentation 3. to collect necessary data and to appropriately analyze them 4. to put the results together into a research report and to persuasively present it 5. to correctly understand other students' presentations and to review them both critically and constructively
授業の目的と概要-授業計画	学期のはじめに発表スケジュールを発表する。 The schedule of the student presentations will be announced by the beginning of the course.
授業の目的と概要-1	学生による発表とそれに関する討議 1 Presentations by the 1st and 2nd students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-2	学生による発表とそれに関する討議 2 Presentations by the 3rd and 4th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-3	学生による発表とそれに関する討議 3 Presentations by the 5th and 6th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-4	学生による発表とそれに関する討議 4 Presentations by the 7th and 8th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-5	学生による発表とそれに関する討議 5 Presentations by the 9th and 10th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-6	学生による発表とそれに関する討議 6 Presentations by the 11th and 12th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-7	学生による発表とそれに関する討議 7 Presentations by the 13th and 14th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-8	学生による発表とそれに関する討議 8 Presentations by the 15th and 16th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-9	学生による発表とそれに関する討議 9 Presentations by the 17th and 18th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-10	学生による発表とそれに関する討議 10 Presentations by the 19th and 20th students, after each of which there will be a discussion by all.

授業の目的と概要-11	学生による発表とそれに関する討論 1 1 Presentations by the 21st and 22nd students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-12	学生による発表とそれに関する討論 1 2 Presentations by the 23rd and 24th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-13	学生による発表とそれに関する討論 1 3 Presentations by the 25th and 26th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-14	学生による発表とそれに関する討論 1 4 Presentations by the 27th and 28th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-15	学生による発表とそれに関する討論 1 5 Presentations by the 29th and 30th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-試験	この授業は受講者がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて参加者全員で討議することにより、言語科学分野における研究の方法論や発表の仕方などに習熟することを目的とするので試験は行わない。 In this course, the students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and the others will discuss them. Thereby, the students will acquire the necessary methodology and skills to conduct research in language science and to present the results. Therefore, there will be no exam.
実務・実践的授業	
成績評価方法	口頭発表および授業中の討議への参加を評価する。 Evaluation will be based on the presentation and participation in the discussion.
教科書および参考書	使用しない。必要な場合は授業中に指示する。 No textbooks will be used, although some literature might be recommended in the course if necessary.
授業時間外学修	学生は自分の発表予定日に向けて先行研究や自分の論考を分かりやすくまとめ、また発表用スライドを準備する。 The students have to prepare the presentation on the designated day, including presentation slides.
その他	なし None
更新日付	2026/02/24 11:24:33
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	アジア・アフリカ研究特別講義A
曜日・講時	木曜3限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	大河原 知樹
科目ナンバリング	KIC-ARS706J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	アジア・アフリカ研究の諸問題A Critical Examination of Asian and African Studies A
授業の目的と概要	アジア・アフリカ、とくに中国とイスラーム圏の政治、社会、文化の特徴とその変容過程について、主要な論文、著書の精読を通じて批判的に理解することを目的とする。 Students are expected to understand characteristics and transformations of Asian and African Area by investigating the related articles and monographs in critical ways.
学修の到達目標	対象地域の現在の政治、社会、文化を理解する上で基本的かつ重要なファクターを概観し、かつこれらを現実の社会的文脈の中に批判的に検証する学問的な効果やスキルの修得を目指す。 Students are expected to survey the fundamental and significant factors in understanding the present politics, society and culture of the area under their study and should improve their critical abilities and academic skills in the actual social context.
授業の目的と概要-授業計画	この分野における碩学の意見、考え方を批判的に理解・検討することの重要性を理解する。 Understand the importance of critically reviewing the opinions and ideas of great scholars in the field.
授業の目的と概要-1	アジア・アフリカ研究の諸問題A 1 Issues in Asian and African Studies A1
授業の目的と概要-2	アジア・アフリカ研究の諸問題A 2 Issues in Asian and African Studies A2
授業の目的と概要-3	アジア・アフリカ研究の諸問題A 3 Issues in Asian and African Studies A3
授業の目的と概要-4	アジア・アフリカ研究の諸問題A 4 Issues in Asian and African Studies A4
授業の目的と概要-5	アジア・アフリカ研究の諸問題A 5 Issues in Asian and African Studies A5
授業の目的と概要-6	アジア・アフリカ研究の諸問題A 6 Issues in Asian and African Studies A6
授業の目的と概要-7	アジア・アフリカ研究の諸問題A 7 Issues in Asian and African Studies A7
授業の目的と概要-8	アジア・アフリカ研究の諸問題A 8 Issues in Asian and African Studies A8
授業の目的と概要-9	アジア・アフリカ研究の諸問題A 9 Issues in Asian and African Studies A9
授業の目的と概要-10	アジア・アフリカ研究の諸問題A10 Issues in Asian and African Studies A10

授業の目的と概要-11	アジア・アフリカ研究の諸問題A11 Issues in Asian and African Studies A11
授業の目的と概要-12	アジア・アフリカ研究の諸問題A12 Issues in Asian and African Studies A12
授業の目的と概要-13	アジア・アフリカ研究の諸問題A13 Issues in Asian and African Studies A13
授業の目的と概要-14	アジア・アフリカ研究の諸問題A14 Issues in Asian and African Studies A14
授業の目的と概要-15	アジア・アフリカ研究の諸問題A15 Issues in Asian and African Studies A15
授業の目的と概要-試験	報告者による報告および報告内容に関して、教員と学生が討論を行う。 Discussion among faculty and students about the presenter's report and the content of the report.
実務・実践的授業	
成績評価方法	授業での報告と討論への参加を総合的に評価して行う。 We will evaluate the presentations and discussions at classes comprehensively.
教科書および参考書	適宜、プリントを配布。講義の中で適宜指示する。 We will distribute related reference materials and designate important references whenever necessary in the lectures.
授業時間外学修	レジュメの準備、討論の内容整理が必須。 Preparation of resumes and organization of discussions are essential.
その他	とくになし。 Nothing in particular.
更新日付	2024/02/21 12:09:33
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	ヨーロッパ・アメリカ研究特別演習A
曜日・講時	木曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	寺本 成彦、小原 豊志
科目ナンバリング	KIC-ARS701J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	ヨーロッパ・アメリカ研究の展開 (2026-1) The Deepening of European and American Studies (2026-1)
授業の目的と概要	ヨーロッパ、およびアメリカの文学・歴史・社会・文化を研究対象とする学生の博士論文作成に向け、受講生が研究報告をおこない、その報告に関する質疑応答や意見交換を出席者全員でおこなう。 In this course the students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and the others will discuss them. Thereby the students will acquire the necessary skills to conduct research in European and American studies and to present the results.
学修の到達目標	研究報告ならびに議論をつうじ、学術研究の方法を習得するとともに、完成度の高い博士論文を作成する能力を身につけること。 In this course the students will acquire (1) the necessary skills to conduct research in European and American studies (2) the ability to generate a high-level doctoral thesis.
授業の目的と概要-授業計画	博士論文の完成に向け、研究科の学位取得スケジュールに合わせた研究報告をおこなう。 The students make several presentations in accord with the degree program.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション Orientation
授業の目的と概要-2	研究発表と議論 (1) Presentations and Discussions (1)
授業の目的と概要-3	研究発表と議論 (2) Presentations and Discussions (2)
授業の目的と概要-4	研究発表と議論 (3) Presentations and Discussions (3)
授業の目的と概要-5	研究発表と議論 (4) Presentations and Discussions (4)
授業の目的と概要-6	研究発表と議論 (5) Presentations and Discussions (5)
授業の目的と概要-7	研究発表と議論 (6) Presentations and Discussions (6)
授業の目的と概要-8	研究発表と議論 (7) Presentations and Discussions (7)
授業の目的と概要-9	研究発表と議論 (8) Presentations and Discussions (8)
授業の目的と概要-10	研究発表と議論 (9) Presentations and Discussions (9)

授業の目的と概要-11	研究発表と議論 (10) Presentations and Discussions (10)
授業の目的と概要-12	研究発表と議論 (11) Presentations and Discussions (11)
授業の目的と概要-13	研究発表と議論 (12) Presentations and Discussions (12)
授業の目的と概要-14	研究発表と議論 (13) Presentations and Discussions (13)
授業の目的と概要-15	研究発表と議論 (14) Presentations and Discussions (14)
授業の目的と概要-試験	筆記試験は行わない。 No paper test will be held.
実務・実践的授業	
成績評価方法	研究報告内容および議論への参加度を総合的に評価する。 Evaluation will be based on the presentation and participation in the discussion.
教科書および参考書	教科書は使用しない。参考書は適宜、授業のなかで示す。 No textbooks will be used, although some literature might be recommended in the course if necessary.
授業時間外学修	学生は自分の発表の際に用いるハンドアウトを決められた日までに提出すること。 The students have to submit their handouts on the designated day.
その他	オフィシアワーについては別途提示する。 Office hours will be announced separately.
更新日付	2026年3月1日
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	アジア・アフリカ研究特別演習A
曜日・講時	木曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC）
単位数	2単位
担当教員	大河原 知樹
科目ナンバリング	KIC-ARS704J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定A Research Topics of Asian and African Studies A
授業の目的と概要	学生各自がそれぞれの研究テーマに即して報告・発表を行い、それをめぐって参加者全員が分析・討論を行う。 Students are encouraged to report and present their own research achievements according to each one's research topic and all the participants will take part in the discussion about their presentations in every seminar.
学修の到達目標	院生が自らの研究を日本内外の研究状況と比較検討し、その研究テーマの斬新性、意義、その分析手法の特徴などを発表する。他の学生は発表についての確に理解し批評する能力を養う。その上に立って、とくに研究課題の設定とその分析の手法、論理的展開の手法、論文の作成と研究成果の発表方法などを習得する。 Students are expected to compare and assess their own research in the context of domestic and foreign research survey and present their features, uniqueness and significance of methodology. They should understand correctly the presentations of other students and improve their critical abilities as well. By doing so, they will acquire the setting of topics, the analytical methods, the know-how about writing the articles and the presentations of their research achievements.
授業の目的と概要-授業計画	学生の研究報告とこれに関する討論（質疑・応答）を中心に行う。 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法 2) レジユメの作成、発表の方法、討論の仕方 3) 論文（論文発表である場合） The class will focus on student research reports and discussions (questions and answers) related to the reports. 1) How to analyze and critically examine research materials 2) How to prepare resumes, make presentations, and hold discussions 3) Thesis (if it is a paper presentation)
授業の目的と概要-1	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定A1 Current Status and Issues of Asian and African Studies A1
授業の目的と概要-2	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定A2 Current Status and Issues of Asian and African Studies A2
授業の目的と概要-3	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定A3 Current Status and Issues of Asian and African Studies A3
授業の目的と概要-4	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定A4 Current Status and Issues of Asian and African Studies A4
授業の目的と概要-5	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定A5 Current Status and Issues of Asian and African Studies A5
授業の目的と概要-6	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定A6 Current Status and Issues of Asian and African Studies A6
授業の目的と概要-7	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定A7 Current Status and Issues of Asian and African Studies A7
授業の目的と概要-8	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定A8 Current Status and Issues of Asian and African Studies A8
授業の目的と概要-9	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定A9 Current Status and Issues of Asian and African Studies A9

授業の目的と概要-10	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定A10 Current Status and Issues of Asian and African Studies A10
授業の目的と概要-11	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定A11 Current Status and Issues of Asian and African Studies A11
授業の目的と概要-12	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定A12 Current Status and Issues of Asian and African Studies A12
授業の目的と概要-13	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定A13 Current Status and Issues of Asian and African Studies A13
授業の目的と概要-14	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定A14 Current Status and Issues of Asian and African Studies A14
授業の目的と概要-15	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定A15 Current Status and Issues of Asian and African Studies A15
授業の目的と概要-試験	学生の研究報告とこれに関する討論（質疑・応答）から以下を評価する。 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法 2) レジユメの作成、発表の方法、討議の仕方 3) 論文（論文発表である場合） The following will be evaluated from student research reports and related discussions (questions and answers). 1) How to analyze and critically examine research materials 2) Resume preparation, presentation methods, and discussion methods 3) Thesis (if it is a paper presentation)
実務・実践的授業	
成績評価方法	演習での発表・報告と討論の内容によって、総合的に評価する。 We will evaluate the presentations and discussions at seminars comprehensively.
教科書および参考書	資料は発表者が作成・配布する。参考書は演習の中で随時指示する。 Student presenters are required to prepare and distribute their own handouts and reference materials. We will designate related references whenever necessary.
授業時間外学修	レジユメの準備、討論の内容整理が必須。 Preparation of resumes and organization of discussions are essential.
その他	とくになし。 Nothing in particular.
更新日付	2024/02/21 12:03:01
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	現代日本メディア・ジェンダー研究特別演習A
曜日・講時	木曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	妙木 忍
科目ナンバリング	KIC-ARS726J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	現代日本におけるメディア・ジェンダー研究の実践 The Practice of Media and Gender Studies in Contemporary Japan
授業の目的と概要	受講生が自身の研究テーマを発表し、全員で討論をおこなう。研究内容や研究方法についても検討する。 The purpose of this course is for students to present their own research and engage in discussions. It also aims to help students consider their research content and methods.
学修の到達目標	自身の研究の質を向上させる。討論を通してコメントする力を身に付ける。他の受講生の研究内容や討論内容からも新たな知見を得る。 This course is designed to help students improve the quality of their own research. It will help students develop the skills to comment on others' research through discussions. It also aims to help students gain new insights from the other participants' research and discussions.
授業の目的と概要-授業計画	発表者は期日までにレジュメを配布し、発表をおこなう。その後、全員で討論する。 Presenters will distribute their presentation documents via email before the due date. Each participant will present their own research topic, and all participants will engage in discussions.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション Orientation
授業の目的と概要-2	発表および討論 (1) Presentation and discussion (1)
授業の目的と概要-3	発表および討論 (2) Presentation and discussion (2)
授業の目的と概要-4	発表および討論 (3) Presentation and discussion (3)
授業の目的と概要-5	発表および討論 (4) Presentation and discussion (4)
授業の目的と概要-6	発表および討論 (5) Presentation and discussion (5)
授業の目的と概要-7	発表および討論 (6) Presentation and discussion (6)
授業の目的と概要-8	発表および討論 (7) Presentation and discussion (7)
授業の目的と概要-9	発表および討論 (8) Presentation and discussion (8)
授業の目的と概要-10	発表および討論 (9) Presentation and discussion (9)

授業の目的と概要-11	発表および討論 (10) Presentation and discussion (10)
授業の目的と概要-12	発表および討論 (11) Presentation and discussion (11)
授業の目的と概要-13	発表および討論 (12) Presentation and discussion (12)
授業の目的と概要-14	発表および討論 (13) Presentation and discussion (13)
授業の目的と概要-15	発表および討論 (14) Presentation and discussion (14)
授業の目的と概要-試験	試験はおこなわない。 No examination
実務・実践的授業	
成績評価方法	参加度 (50%)、発表 (50%) Participation (50%), Presentation (50%)
教科書および参考書	参考文献は適宜紹介する。 Reference materials will be introduced as necessary.
授業時間外学修	発表の準備をする。また、授業までに他の発表者のレジュメを読んでくる。 Preparation for the presentation will be required. Students are also required to read the documentation of other presenters before the class.
その他	レジュメは発表する週の月曜日までに配布すること。 The presenter should distribute their presentation documents by the Monday of the week of the presentation.
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	国際政治経済論特別演習 A
曜日・講時	木曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	大窪 和明
科目ナンバリング	KIC-IPE701J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	国際政治経済関係研究の実践 A Practices of the research on International Politics and Economics A
授業の目的と概要	受講生各自がそれぞれの研究テーマに即して、報告・発表を行い、それをめぐって参加者全員で分析・討論を行う。受講生が国際政治経済の特質、研究対象、研究方法の基礎を学び、それぞれの問題意識をもとに教員による研究・論文作成の指導を受ける。 The students make presentations on each topic, and exchange views on it. They are requested to learn the essence, topics and methodologies of IPE, and to have tuitions by their supervisors.
学修の到達目標	受講生が自らの研究を日本国内外の研究状況と比較検討し、その研究テーマの斬新性（創造性）、意義、その分析手法の特徴などを発表する。特に、この総合演習において研究課題の設定、研究資料の収集と扱い、分析の手法、論理的な展開の手法、論文作成に必要な知識と研究成果のプレゼンテーション能力を習得する。また、他の学生は発表についての確に理解し、他者に対する討議の仕方、批判的検討の方法を学び、批評する能力を身につける。 The students are requested to examine their own research by comparing with existing works in Japan and overseas, and to present the originality and characteristics of such works. In particular, they are requested to understand how to set up research topics, how to interpret resources and how to present and develop analytical framework. The other attendants are requested to understand the content of the presentations, and to learn how to discuss others' topics and acquire a capability to review others' argument.
授業の目的と概要-授業計画	一人あるいは数人の受講生の研究報告と、これに関する検討(質疑、応答)を中心に行う。 Presentations by one or multiple students, and discussions on them.
授業の目的と概要-1	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-2	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-3	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-4	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-5	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-6	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-7	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-8	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-9	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-10	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.

授業の目的と概要-11	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-12	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-13	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-14	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-15	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-試験	演習でのパフォーマンス（下記のような諸事項）による考査。 1. 研究資料の収集と扱い方、分析手法、レジュメの作成、発表の方法 2. 他者に対する討議の仕方、批判的検討の方法 3. 論文の書き方  The grades will be judged on the following bases. 1. How the students deal with research materials, research skills, presentation skills and so on 2. How the students give their own views on others' presentations 3. The contents of the students' dissertations.
実務・実践的授業	
成績評価方法	出席、演習での発表・報告と討論の内容に基づき、総合的に評価する。 Presentations and class participation.
教科書および参考書	教科書は特に指定しない。発表者が資料を作成し参加者全員に配布する。参考書は演習の中で随時指示する。 No specific textbooks. Presenters are requested to make and distribute their handouts. Suggestions are made on referenced materials where necessary.
授業時間外学修	レジュメあるいはPPTの作成、討論内容の整理が必須である。 Students are requested to produce handouts and/or PPTs while making efforts to conceptualise their research contents.
その他	特になし。 N.A.
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	国際環境資源政策論特別演習A
曜日・講時	木曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC）
単位数	2単位
担当教員	青木 俊明、佐藤 正弘
科目ナンバリング	K1C-0S0704J
使用言語	日本語と英語 Japanese and English
メディア授業科目	
授業題目	国際環境資源政策論特別演習A Special Seminar of International Environmental Resource Policy A
授業の目的と概要	国際環境資源政策論分野の研究を行っている大学院生の研究活動に対し、幅広い研究視点にもとづいたアドバイスを与え、研究方法の確立と研究発表能力向上のための研究指導を行う。また、各自の研究テーマにおける研究背景と問題意識を具体化し、研究目的を明確にする。 This course gives useful advices to graduate students for the field of international environmental resource policy research based on broad viewpoint. The aims of this course are to master research methodologies and improve presentation skills. Students are expected to make their own research backgrounds, issues and goals clearer.
学修の到達目標	自分の研究について、学術的背景や社会的必要性も含め、自分の言葉で適切に説明できるようになること。特に、自己の研究の学術的貢献については、明確に説明できるようになること。Students are expected to be able to explain their research contents including their academic backgroundss and social necessity in their own words. In particular, they should be able to clearly explain the academic contributions of their own research.
授業の目的と概要-授業計画	プレゼンテーションや教員とのディスカッションを通じて、自立した研究者となるために必要なスキルの修得を行う。 Through presentations and discussions with instructors, students are required to acquire the skills necessary to become independent researchers.
授業の目的と概要-1	イントロダクション Introduction
授業の目的と概要-2	基礎文献の講読 Basic literature
授業の目的と概要-3	基礎文献の講読 Basic literature
授業の目的と概要-4	基礎文献の講読 Basic literature
授業の目的と概要-5	対象事例の選定・調査内容の設定 Selection of cases and research topics
授業の目的と概要-6	関連文献の講読・比較検討 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-7	関連文献の講読・比較検討 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-8	関連文献の講読・比較検討 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-9	事例研究の中間発表 Interim presentations on case studies
授業の目的と概要-10	関連文献の講読・比較考察 Comparative analysis of related literature

授業の目的と概要-11	関連文献の講読・比較考察 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-12	関連文献の講読・比較考察 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-13	研究成果の発表 Presentations
授業の目的と概要-14	研究成果の発表 Presentations
授業の目的と概要-15	研究成果の発表 Presentations
授業の目的と概要-試験	期末試験は行わない。 No final examination
実務・実践的授業	
成績評価方法	発表内容（発表資料を含む）50%、出席20%、授業への積極的な貢献30% Presentation, including Presentation Materials:50%, Class Attendance:20%, Active contributions in class:30%
教科書および参考書	授業において適宜参考文献リストを配布。 Reference lists will be shown in the class as needed.
授業時間外学修	積極的に他の研究者と議論を行うこと。直接的には関係しない分野の文献も含め、できるだけ多くの文献を読むこと。さらに、最新の分析手法やそれに関する知見についても、十分に修得しておくこと。 It is desirable to actively engage in discussions with other researchers. Read as much literature as possible, including literature from fields not directly related to your field. In addition, students should be well versed in the latest analytical methods and knowledge about them.
その他	特になし NA
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	アジア・アフリカ研究特別研究A
曜日・講時	木曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	大河原 知樹
科目ナンバリング	KIC-ARS705J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	アジア・アフリカ研究の現状と分析A Research Approaches to Asian and African Studies A
授業の目的と概要	<p>学生各自がそれぞれの研究テーマに即して報告・発表を行い、それをめぐって参加者全員が分析・討論を行う。随時、学生のテーマに応じて、数名ずつの分科会方式を採用する。</p> <p>Students are encouraged to report and present their own research achievements according to each one's research topic and all the participants will take part in the discussion about their presentations in every seminar.</p>
学修の到達目標	<p>院生が自らの研究を日本内外の研究状況と比較検討し、その研究テーマの斬新性、意義、その分析手法の特徴などを発表する。他の学生は発表についての確に理解し批評する能力を養う。その上に立って、とくに研究課題の設定とその分析の手法、論理的展開の手法、論文の作成と研究成果の発表方法などを習得する。</p> <p>Students are expected to compare and assess their own research in the context of domestic and foreign reserch survey and present their features, uniqueness and significance of methodology. They should understand correctly the presentations of other students and improve their critical abilities as well. By doing so, they will acquire the setting of topics, the analytical methods, the know-how about writing the articles and the presentations of their reasearch achievements.</p>
授業の目的と概要-授業計画	<p>学生の研究報告とこれに関する討論(質疑・応答)を中心に行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究資料の分析・批判的検討の方法</li> <li>2) レジューメの作成、発表の方法、討論の仕方</li> <li>3) 論文(論文発表である場合)</li> </ol> <p>The class will focus on student research reports and discussions (questions and answers) related to the reports.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) How to analyze and critically examine research materials</li> <li>2) How to prepare resumes, make presentations, and hold discussions</li> <li>3) Thesis (if it is a paper presentation)</li> </ol>
授業の目的と概要-1	アジア・アフリカ研究の現状と分析A1 Current Status and Analysis of Asian and African Studies A1
授業の目的と概要-2	アジア・アフリカ研究の現状と分析A2 Current Status and Analysis of Asian and African Studies A2
授業の目的と概要-3	アジア・アフリカ研究の現状と分析A3 Current Status and Analysis of Asian and African Studies A3
授業の目的と概要-4	アジア・アフリカ研究の現状と分析A4 Current Status and Analysis of Asian and African Studies A4
授業の目的と概要-5	アジア・アフリカ研究の現状と分析A5 Current Status and Analysis of Asian and African Studies A5
授業の目的と概要-6	アジア・アフリカ研究の現状と分析A6 Current Status and Analysis of Asian and African Studies A6
授業の目的と概要-7	アジア・アフリカ研究の現状と分析A7 Current Status and Analysis of Asian and African Studies A7
授業の目的と概要-8	アジア・アフリカ研究の現状と分析A8 Current Status and Analysis of Asian and African Studies A8
授業の目的と概要-9	アジア・アフリカ研究の現状と分析A9 Current Status and Analysis of Asian and African Studies A9

授業の目的と概要-10	アジア・アフリカ研究の現状と分析A10 Current Status and Analysis of Asian and African Studies A10
授業の目的と概要-11	アジア・アフリカ研究の現状と分析A11 Current Status and Analysis of Asian and African Studies A11
授業の目的と概要-12	アジア・アフリカ研究の現状と分析A12 Current Status and Analysis of Asian and African Studies A12
授業の目的と概要-13	アジア・アフリカ研究の現状と分析A13 Current Status and Analysis of Asian and African Studies A13
授業の目的と概要-14	アジア・アフリカ研究の現状と分析A14 Current Status and Analysis of Asian and African Studies A14
授業の目的と概要-15	アジア・アフリカ研究の現状と分析A15 Current Status and Analysis of Asian and African Studies A15
授業の目的と概要-試験	学生の研究報告とこれに関する討論(質疑・応答)から以下を評価する。 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法 2) レジユメの作成、発表の方法、討議の仕方 3) 論文(論文発表である場合) The following will be evaluated from student research reports and related discussions (questions and answers). 1) How to analyze and critically examine research materials 2) Resume preparation, presentation methods, and discussion methods 3) Thesis (if it is a paper presentation)
実務・実践的授業	
成績評価方法	発表・報告と討論の内容によって、総合的に評価する。 We will evaluate the presentations and discussions at seminars comprehensively.
教科書および参考書	資料は発表者が作成・配布する。参考書は特別研究の中で随時指示する。 Student presenters are required to prepare and distribute their own handouts and reference materials. We will designate related references whenever necessary.
授業時間外学修	レジユメの準備、討論の内容整理が必須。 Preparation of resumes and organization of discussions are essential.
その他	とくになし。 Nothing in particular.
更新日付	2024/02/21 12:07:22
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。	

科目名	現代日本メディア・ジェンダー研究特別講義A
曜日・講時	木曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	妙木 忍
科目ナンバリング	KIC-ARS709J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	現代日本におけるメディア・ジェンダー研究の視座 Perspectives on Media and Gender Studies in Contemporary Japan
授業の目的と概要	現代日本におけるメディア・ジェンダー研究の研究動向を踏まえつつ、発表や討論を通してこれらの分野の視座を学ぶ。 The purpose of this course is to help students acquire perspectives on media and gender studies in contemporary Japan through lectures, presentations and discussions, while also taking into account research trends in these fields.
学修の到達目標	現代日本におけるメディア・ジェンダー研究の方法論を習得する。 This course is designed to help students acquire the methodology of media and gender studies in contemporary Japan.
授業の目的と概要-授業計画	指導教員の指導のもとで、自身の研究を進めていく。 This course aims to help students advance their own research under the guidance of a supervisor.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション Orientation
授業の目的と概要-2	発表および討論 (1) Presentation and discussion (1)
授業の目的と概要-3	発表および討論 (2) Presentation and discussion (2)
授業の目的と概要-4	発表および討論 (3) Presentation and discussion (3)
授業の目的と概要-5	発表および討論 (4) Presentation and discussion (4)
授業の目的と概要-6	発表および討論 (5) Presentation and discussion (5)
授業の目的と概要-7	発表および討論 (6) Presentation and discussion (6)
授業の目的と概要-8	発表および討論 (7) Presentation and discussion (7)
授業の目的と概要-9	発表および討論 (8) Presentation and discussion (8)
授業の目的と概要-10	発表および討論 (9) Presentation and discussion (9)

授業の目的と概要-11	発表および討論 (10) Presentation and discussion (10)
授業の目的と概要-12	発表および討論 (11) Presentation and discussion (11)
授業の目的と概要-13	発表および討論 (12) Presentation and discussion (12)
授業の目的と概要-14	発表および討論 (13) Presentation and discussion (13)
授業の目的と概要-15	発表および討論 (14) Presentation and discussion (14)
授業の目的と概要-試験	試験はおこなわない。 No examination
実務・実践的授業	
成績評価方法	発表と討論の内容に基づいて総合的に評価する。 Participants will be comprehensively evaluated based on the progress of their research and the content of their discussions.
教科書および参考書	参考文献は適宜紹介する。 Reference materials will be introduced as necessary.
授業時間外学修	発表の準備をする。また、授業までに他の発表者のレジュメを読んでくる。 Preparation for presentations will be required. Students are also required to read the documents of other presenters before their presentation is given.
その他	
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	国際政治経済学特別講義 A
曜日・講時	木曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	大窪 和明
科目ナンバリング	KIC-IPE703J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	国際政治経済関係研究の特別講義 A Special Lectures on International Politics and Economics A
授業の目的と概要	国際政治関係、国際経済関係に関する学術研究のフロンティアを紹介する。 This course is aimed at surveying previous works and sharing information on the latest research on students' subjects.
学修の到達目標	国際政治関係、国際経済関係の先端的な研究を分析し、受講生各自が自らの研究の位置付けを明確にすることで、各自の研究の幅を拡張し、内容を深化する。 Students are expected to analyse the latest research on International Politics and Economics, and to situate their works in the context of previous literature of their research subjects.
授業の目的と概要-授業計画	講義、輪読、ディスカッションなどによる。 Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-1	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-2	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-3	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-4	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-5	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-6	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-7	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-8	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-9	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-10	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students

授業の目的と概要-11	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-12	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-13	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-14	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-15	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-試験	なし N. A.
実務・実践的授業	
成績評価方法	当該分野の先行研究のサーヴェイ、および研究の進捗状況 Students' survey on the existing literature and the progress of students' research.
教科書および参考書	なし。 N. A.
授業時間外学修	関連書籍と論文の精読 The survey of existing literature on students' research subjects.
その他	特になし。 N. A.
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	国際環境資源政策論特別研究A
曜日・講時	木曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC）
単位数	2単位
担当教員	青木 俊明、佐藤 正弘
科目ナンバリング	K1C-0S0705J
使用言語	日本語と英語
メディア授業科目	Japanese and English
授業題目	国際環境資源政策論特別研究A Special Research of International Environmental Resource Policy A
授業の目的と概要	国際環境資源政策論分野の研究を行っている大学院生の研究活動に対し、幅広い研究視点にもとづいたアドバイスを与え、研究方法の確立と研究発表能力向上のための研究指導を行う。また、各自の研究テーマにおける研究背景と問題意識を具体化し、研究目的を明確にする。 This course gives useful advices to graduate students for the field of international environmental resource policy research based on broad viewpoint. The aims of this course are to confirm research approach and promote presentation ability. And participants are expected to embody own research background, issue and goal.
学修の到達目標	最新の研究成果を踏まえ、自己の研究の学術的背景や社会的必要性を適切に説明できるようになること。特に、研究の学術的独自性については、明確に述べられるようになること。Students are required to be able to appropriately explain the academic background and social necessity of one's own research based on the latest research findings. In particular, the student should be able to clearly state the academic originality of his/her research.
授業の目的と概要-授業計画	プレゼンテーションや教員とのディスカッションを通じて、自立した研究者となるために必要なスキルの修得を行う。 Through presentations and discussions with instructors, students are required to acquire the skills necessary to become independent researchers.
授業の目的と概要-1	イントロダクション Introduction
授業の目的と概要-2	研究の背景と必要性の考察 Consideration of research background and necessity
授業の目的と概要-3	基礎文献の講読 Basic literature
授業の目的と概要-4	基礎文献の講読 Basic literature
授業の目的と概要-5	学術論文講読・発表および批評 Paper review and presentation
授業の目的と概要-6	学術論文講読・発表および批評 Paper review and presentation
授業の目的と概要-7	学術論文講読・発表および批評 Paper review and presentation
授業の目的と概要-8	国際環境資源政策論の研究手法 Research approach on international environmental resource policy
授業の目的と概要-9	国際環境資源政策論の研究手法 Research approach on international environmental resource policy
授業の目的と概要-10	国際環境資源政策論の研究手法 Research approach on international environmental resource policy

授業の目的と概要-11	研究仮説及びシナリオの設定 Research hypothesis and scenario setting
授業の目的と概要-12	研究仮説及びシナリオの設定 Research hypothesis and scenario setting
授業の目的と概要-13	事例研究発表 Presentation for case study
授業の目的と概要-14	事例研究発表 Presentation for case study
授業の目的と概要-15	事例研究発表 Presentation for case study
授業の目的と概要-試験	期末試験は行わない。 No final examination
実務・実践的授業	
成績評価方法	発表内容（発表資料を含む）50%、出席20%、授業への積極的な貢献30% Presentation, including Presentation Materials:50%, Class Attendance:20%, Active contributions in class:30%
教科書および参考書	授業において適宜参考文献リストを配布。 Reference lists will be shown in the class as needed.
授業時間外学修	直接的には関係しない分野の文献も含め、できるだけ多くの文献を読むこと。さらに、最新の分析手法やそれに関する知見についても、十分に修得しておくこと。 Read as much literature as possible, including literature from fields not directly related to your field. In addition, students should be well versed in the latest analytical methods and knowledge about them.
その他	特になし NA
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	言語科学研究特別講義A
曜日・講時	木曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	中本 武志
科目ナンバリング	KIC-LIN703J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	言語科学における諸課題 (1) Specific research issues in Language Sciences (1)
授業の目的と概要	<p>授業担当者の専門分野に関して講義や受講者による文献紹介などを含めた討議を行う。これにより、当該専門分野における高度な知識を得ることを目的とする。 In this course, the students will get a deep understanding of the topics selected by the instructors. Each session will consist of a lecture by an instructor and/or oral presentations of relevant literature by one or a couple of students, followed by class discussion on the particular topic of the day.</p>
学修の到達目標	<p>受講者はこの授業を通して、扱われる専門分野についてのより高度な知識を得るとともに、それを自身の研究に役立てる。 In this course, the students will get a deep understanding of the topics treated in each session, so that they can incorporate the obtained knowledge and insight into their own research.</p>
授業の目的と概要-授業計画	<p>学期のはじめにスケジュールを発表する。 The schedule and the main topics of the course will be announced at the beginning of the course.</p>
授業の目的と概要-1	<p>講師1による講義とそれに関する討議 (1) Lecture 1 by the 1st instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-2	<p>講師1による講義とそれに関する討議 (2) Lecture 2 by the 1st instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-3	<p>講師1による講義とそれに関する討議 (3) Lecture 3 by the 1st instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-4	<p>講師1による講義とそれに関する討議 (4) Lecture 4 by the 1st instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-5	<p>講師2による講義とそれに関する討議 (1) Lecture 1 by the 2nd instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-6	<p>講師2による講義とそれに関する討議 (2) Lecture 2 by the 2nd instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-7	<p>講師2による講義とそれに関する討議 (3) Lecture 3 by the 2nd instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-8	<p>講師2による講義とそれに関する討議 (4) Lecture 4 by the 2nd instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-9	<p>講師3による講義とそれに関する討議 (1) Lecture 1 by the 3rd instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-10	<p>講師3による講義とそれに関する討議 (2) Lecture 2 by the 3rd instructor and discussion on the topic.</p>

授業の目的と概要-11	講師3による講義とそれに関する討論(3) Lecture 3 by the 3rd instructor and discussion on the topic.
授業の目的と概要-12	講師3による講義とそれに関する討論(4) Lecture 4 by the 3rd instructor and discussion on the topic.
授業の目的と概要-13	講師4による講義とそれに関する討論(1) Lecture 1 by the 4th instructor and discussion on the topic.
授業の目的と概要-14	講師4による講義とそれに関する討論(2) Lecture 2 by the 4th instructor and discussion on the topic.
授業の目的と概要-15	講師4による講義とそれに関する討論(3) Lecture 3 by the 4th instructor and discussion on the topic.
授業の目的と概要-試験	成績評価は各講師の各学生に対する評価を総合して決定されるが、各講師の評価が試験によるかそれ以外の方法によるかは各講師より発表される。 Evaluation will be determined by summing up the grades given by the instructors, which will be based on class attendance, the participation in the discussion, assigned reports, and exams. Details will be announced at the beginning of the course.
実務・実践的授業	
成績評価方法	出席を含めた授業中の討議への参加や教員から与えられた課題に関する成果を総合的に評価する。 Evaluation will be determined by adding the grades given by the instructors, which will be based on class attendance, participation in the discussion, assigned reports, and/or exams. Details will be announced at the beginning of the course.
教科書および参考書	各講師が必要に応じて授業中に指示する。 Necessary literature will be designated in the course by each instructor.
授業時間外学修	各講師が必要に応じて授業中に指示する。 Necessary task or work will be designated in the course by each instructor.
その他	なし None
更新日付	2026/02/24 11:44:50
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。	

科目名	日本宗教・思想史研究特別演習A
曜日・講時	金曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC）
単位数	2単位
担当教員	KLAUTAU ORION、GODART GERARD RAINIER CLINTON
科目ナンバリング	
使用言語	日本語／英語
メディア授業科目	日本宗教・思想史研究の実践（1）
授業題目	日本宗教・思想史研究の実践 1
授業の目的と概要	受講者が各自の研究テーマとその進度に応じて発表を行い、参加者全員による討議を行う。研究の進行に必要とされる方法論や発表方法について議論が行われる。
学修の到達目標	日本宗教及び思想史に関する自主的な研究を行うスキルを習得する。
授業の目的と概要-授業計画	発表者はあらかじめ期日までにレジュメ・ハンドアウトを参加者全員に配布し、これにもとづいて当日発表する。その後全員で質疑及び意見交換をおこなう。
授業の目的と概要-1	ガイダンス
授業の目的と概要-2	発表および討議
授業の目的と概要-3	発表および討議
授業の目的と概要-4	発表および討議
授業の目的と概要-5	発表および討議
授業の目的と概要-6	発表および討議
授業の目的と概要-7	発表および討議
授業の目的と概要-8	発表および討議
授業の目的と概要-9	発表および討議
授業の目的と概要-10	発表および討議

授業の目的と概要-11	発表および討議
授業の目的と概要-12	発表および討議
授業の目的と概要-13	発表および討議
授業の目的と概要-14	発表および討議
授業の目的と概要-15	発表および討議
授業の目的と概要-試験	試験は行わない。
実務・実践的授業	
成績評価方法	試験は行わない。ただし、各自のレジュメ、発表、討論の受け答えをもとに、総合的に評価する。
教科書および参考書	-
授業時間外学修	-
その他	授業の具体的な進行方法については最初のガイダンスの際に説明する。 発表レジュメ・資料は発表の週の水曜日までに提出、配布すること。すべての出席者の活発な議論が求められる。
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	日本宗教・思想史研究特別講義A
曜日・講時	金曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC）
単位数	2単位
担当教員	KLAUTAU ORION、GODART GERARD RAINIER CLINTON
科目ナンバリング	
使用言語	日本語／英語
メディア授業科目	
授業題目	日本宗教・思想史研究の方法と諸問題A
授業の目的と概要	日本宗教・思想史研究に関わる様々な問題をめぐって、相互討論によって研究の視点や方法を深めていく。受講生自身の草稿に対してピアレビューを行うとともに、日本宗教・思想史研究をめぐる新たな研究動向や視点を積極的に紹介する。
学修の到達目標	日本宗教及び思想史に関する自主的な研究を行うスキルを習得する。
授業の目的と概要-授業計画	発表者はあらかじめ期日までにレジュメ・ハンドアウトを参加者全員に配布し、これにもとづいて当日発表する。その後全員で質疑及び意見交換をおこなう。
授業の目的と概要-1	オリエンテーション
授業の目的と概要-2	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-3	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-4	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-5	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-6	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-7	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-8	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-9	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-10	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議

授業の目的と概要-11	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-12	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-13	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-14	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-15	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-試験	試験は行わない。
実務・実践的授業	
成績評価方法	試験は行わない。ただし、各自のレジュメ、発表、討論の受け答えをもとに、総合的に評価する。
教科書および参考書	-
授業時間外学修	-
その他	授業の具体的な進行方法については最初のガイダンスの際に説明する。 ハンドアウト/レジュメに関しては、発表する週の水曜日までに提出すること。
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	日本宗教・思想史研究特別研究A
曜日・講時	金曜6限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC）
単位数	2単位
担当教員	KLAUTAU ORION、GODART GERARD RAINIER CLINTON
科目ナンバリング	
使用言語	日本語／英語
メディア授業科目	
授業題目	日本宗教・思想史研究のスキルの展開
授業の目的と概要	受講者が指導教員の指導を受けながら日本宗教・思想史研究にかかわる各自の研究を行うためのスキルを獲得する。
学修の到達目標	日本宗教及び思想史に関する自主的な研究を行うスキルを習得する。
授業の目的と概要-授業計画	受講者が指導教員と打ち合わせたうえで学会発表、学術雑誌への投稿などの成果発表に関する必要なスキル及びその成果を確認し、指導を受けながら目標を達成してゆく。
授業の目的と概要-1	ガイダンス
授業の目的と概要-2	研究成果発表の日程確認、スケジュール設定。
授業の目的と概要-3	口頭発表のスキル
授業の目的と概要-4	資料分析 1
授業の目的と概要-5	資料分析 2
授業の目的と概要-6	先行研究の整理、およびリテラシー、研究倫理の確認
授業の目的と概要-7	論文、口頭発表に関する発展的概論
授業の目的と概要-8	制作中の論文における研究倫理の再確認
授業の目的と概要-9	序論に関する一般的注意
授業の目的と概要-10	発表のスキル2

授業の目的と概要-11	本論部の展開法 1
授業の目的と概要-12	本論部の展開法 2
授業の目的と概要-13	結論作成に関する注意
授業の目的と概要-14	注釈のつけ方に関する注意と確認
授業の目的と概要-15	成果確認、反省
授業の目的と概要-試験	-
実務・実践的授業	
成績評価方法	試験は行わない。論文及び発表をもって評価する。
教科書および参考書	授業で随時提示する
授業時間外学修	*
その他	指導教員への積極的なアプローチを歓迎する。
更新日付	
<small>1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。</small>	

科目名	多文化共生論特別研究B
曜日・講時	月曜2限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	目黒 志帆美、佐藤 透
科目ナンバリング	KD21210
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	多文化共生論研究の実践 (12)
授業の目的と概要	多文化共生論研究の具体的方法論を習得し、論述の作法を学ぶ。学生個々のテーマに即して指導教員が個別指導をする。
学修の到達目標	①多文化共生論の実際の研究方法を理解する。②それぞれの学生のテーマに基づいて、論述を展開するための実践的な方法を学ぶ。
授業の目的と概要-授業計画	個々の学生が現在取り組んでいるテーマについて教員と討論をして、理解と推論を深める。
授業の目的と概要-1	オリエンテーションと予定の作成
授業の目的と概要-2	個別またはグループによる研究指導 (1)
授業の目的と概要-3	個別またはグループによる研究指導 (2)
授業の目的と概要-4	個別またはグループによる研究指導 (3)
授業の目的と概要-5	個別またはグループによる研究指導 (4)
授業の目的と概要-6	個別またはグループによる研究指導 (5)
授業の目的と概要-7	個別またはグループによる研究指導 (6)
授業の目的と概要-8	個別またはグループによる研究指導 (7)
授業の目的と概要-9	個別またはグループによる研究指導 (8)
授業の目的と概要-10	個別またはグループによる研究指導 (9)

授業の目的と概要-11	個別またはグループによる研究指導(10)
授業の目的と概要-12	個別またはグループによる研究指導(11)
授業の目的と概要-13	個別またはグループによる研究指導(12)
授業の目的と概要-14	個別またはグループによる研究指導(13)
授業の目的と概要-15	個別またはグループによる研究指導(14)
授業の目的と概要-試験	教員とのテーマごとの分析や検討の状況などで試験に代える。
実務・実践的授業	
成績評価方法	平常点による。
教科書および参考書	授業中に適宜指示する。
授業時間外学修	研究上の問題点を整理して提示する準備を整える。教員と共同の検討の成果を研究にフィードバックさせる。
その他	事前に検討するテーマと問題点を教員に伝えること。オフィスアワーはメールでの予約制とする。質問はメールでも受け付ける。
更新日付	2026. 2. 23.
<small>1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。</small>	

科目名	多文化共生論特別講義B
曜日・講時	月曜3限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	目黒 志帆美、佐藤 透
科目ナンバリング	KD21310
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	多文化共生論の理論と実際 (12)
授業の目的と概要	多文化共生論的アプローチの方法論的基礎を修得させるとともに、講座全教員がそれぞれの専門領域に即して、個別的・具体的な諸問題に取り組む際の研究の進め方を指導する。
学修の到達目標	①多文化共生論という学問について、その研究対象、研究方法の多様性を理解する。②それぞれの教員の講義内容から、個別的・具体的な問題に対処する方法を学ぶ。
授業の目的と概要-授業計画	教員が順に4回ずつ以下のテーマに基づいて講義を行う。Each lecturer provides four-week lectures in an "omnibus" style.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション Orientation
授業の目的と概要-2	近代フランス詩概観(1) 坂巻康司
授業の目的と概要-3	近代フランス詩概観(2) 坂巻康司
授業の目的と概要-4	近代フランス詩概観(3) 坂巻康司
授業の目的と概要-5	近代フランス詩概観(4) 坂巻康司
授業の目的と概要-6	近代フランス詩概観(5) 坂巻康司
授業の目的と概要-7	近代フランス詩概観(6) 坂巻康司
授業の目的と概要-8	近代フランス詩概観(7) 坂巻康司
授業の目的と概要-9	ハワイ史研究の実践と課題(1) 目黒志帆美
授業の目的と概要-10	ハワイ史研究の実践と課題(2) 目黒志帆美

授業の目的と概要-11	ハワイ史研究の実践と課題 (3) 目黒志帆美
授業の目的と概要-12	ハワイ史研究の実践と課題 (4) 目黒志帆美
授業の目的と概要-13	ハワイ史研究の実践と課題 (5) 目黒志帆美
授業の目的と概要-14	ハワイ史研究の実践と課題 (6) 目黒志帆美
授業の目的と概要-15	ハワイ史研究の実践と課題 (7) 目黒志帆美
授業の目的と概要-試験	講義の中から関心を抱いたテーマについて、所定のレポートを提出することで試験に代える。
実務・実践的授業	
成績評価方法	レポートによる。
教科書および参考書	授業中に適宜指示する。
授業時間外学修	自分の研究にどのように応用できるかという観点から、配布される資料や自分のノートをよく読み、問題意識を持ち質問などを考える。
その他	レポートについては、引用の箇所と出典を明示するなど、研究倫理に準拠する内容と様式を求める。オフィスアワーはメールでの予約制とする。質問はメールでも受け付ける。
更新日付	2026. 3. 2.
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	多文化共生論特別演習B
曜日・講時	月曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	目黒 志帆美、佐藤 透
科目ナンバリング	KD21410
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	多文化共生論の基礎と発展(12)
授業の目的と概要	多文化共生論という学問の特質、研究対象、研究方法の基礎を学び、受講者それぞれの問題意識をもとに、教員全員による研究・論文作成の指導を受ける。
学修の到達目標	① 学問とは何かを、また学術論文を書くとはどういう行為であるかを理解する。② 多文化共生論という学問の特質を理解する。③ 問題の設定のしかたを学ぶ。④ 資料の収集や扱いかたを学ぶ。⑤ 論文の作成に必要なさまざまな知識を修得する。
授業の目的と概要-授業計画	1名ないし数名の学生がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて教員・学生全員で質問・討論を行う。
授業の目的と概要-1	オリエンテーションと発表予定の作成
授業の目的と概要-2	博士論文執筆状況の発表(1)(後期3年次)
授業の目的と概要-3	研究内容と進捗状況の発表(1)(前期1年次)
授業の目的と概要-4	研究内容と進捗状況の発表(2)(前期1年次)
授業の目的と概要-5	修士論文題目の発表(1)(前期2年次)
授業の目的と概要-6	修士論文題目の発表(2)(前期2年次)
授業の目的と概要-7	修士論文題目の発表(3)(前期2年次)
授業の目的と概要-8	研究内容と進捗状況の紹介(3)(研究生)
授業の目的と概要-9	修士論文執筆状況の発表(1)(前期2年次)
授業の目的と概要-10	修士論文執筆状況の発表(2)(前期2年次)

授業の目的と概要-11	修士論文執筆状況の発表（3）（前期2年次）
授業の目的と概要-12	研究内容と進捗状況の紹介（4）（前期1年次）
授業の目的と概要-13	修士論文発表会の予行演習（前期2年次）
授業の目的と概要-14	研究内容と進捗状況の紹介（5）（前期1年次）
授業の目的と概要-15	博士論文執筆状況の紹介（2）（後期3年次）
授業の目的と概要-試験	発表や討論の状況やレポートなどで試験に代える。
実務・実践的授業	
成績評価方法	発表の内容や討論への関わりかたにより評価する。発表テーマについての個別のレポートによることもある。
教科書および参考書	授業中に適宜指示する。
授業時間外学修	自分の発表の準備を整える。発表後の質問や討論を研究に反映させる。他の学生の発表原稿を事前に読み、質問と議論の準備をする。
その他	発表の1週間前に原稿を演習に参加する教員と学生にメール添付ファイルで配布すること。オフィスアワーはメールでの予約制とする。質問はメールでも受け付ける。
更新日付	2026. 2. 23.
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	応用言語研究特別講義B
曜日・講時	月曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	菅谷 奈津恵
科目ナンバリング	KIC-LIN706J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	論文作成ワークショップB /Workshop on writing a research paper
授業の目的と概要	研究論文の執筆作法、投稿作法を実践的に学ぶ。受講生自身の草稿に対してピアレビューを行い、論文を完成させる。 Students will learn how to write and publish journal papers. They will work on their own drafts and engage in peer review to complete a research paper.
学修の到達目標	1. 論文の基本的な執筆作法・投稿作法が説明できる。 2. 論文を批判的に読み、執筆者に建設的なフィードバックを行うことができる。 3. フィードバックを踏まえて、研究論文を修正することができる。 After completing the course, students will be able to: - explain how to write and publish research papers. - critically read research papers and give effective feedback to authors. - address the reviewers' comments and revise their own paper.
授業の目的と概要-授業計画	演習形式で実施する。The course will be conducted in a workshop style.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション Course orientation
授業の目的と概要-2	研究の進捗報告 Research progress report
授業の目的と概要-3	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-4	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-5	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-6	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-7	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-8	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-9	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-10	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review

授業の目的と概要-11	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-12	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-13	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-14	受講生の草稿のピアレビュー Student peer review
授業の目的と概要-15	まとめ Summary
授業の目的と概要-試験	試験は実施しない。There are no exams.
実務・実践的授業	
成績評価方法	課題1：研究の進捗報告 10%、課題2：発表（草稿の提出と査読への回答）、30%、課題3：査読30%、課題4：修正論文の提出10%、授業参加度20% Assignment1: Research progress report 10%, Assignment 2: Presentation 30%, Assignment 3: Giving review comments 30%, Assignment 4: Revision of a paper 10%, Class participation: 20%
教科書および参考書	参考書 References ・Langham, C. (2011) 『国際論文English査読・執筆ハンドブック』医歯薬出版
授業時間外学修	授業時間外の課題の提出にはGoogle Classroomを用いる。Students submit assignments via Google Classroom.
その他	試験は実施しない。There are no exams.
更新日付	2024/02/16 17:00:49
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	ヨーロッパ・アメリカ研究特別研究B
曜日・講時	月曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	寺本 成彦
科目ナンバリング	
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	ヨーロッパ・アメリカ研究の学知と方法 (2026-2) The Discipline for Advanced European and American Studies (2026-2)
授業の目的と概要	ヨーロッパ・アメリカ研究の学知と方法について指導教員と意見交換を交わすことにより、修士論文で得た新たな知見をふまえ、自らの研究テーマをさらに掘り下げて追究できるようにする。 The students professionally consider the issues on their research topics and related matters, and they will get individual research guidance from their supervisors to prepare for their doctoral theses.
学修の到達目標	指導教員との意見交換を繰り返しおこなうことによって、完成度の高い博士論文を作成する能力を身につける。 The students will master the necessary skills and ability to generate high-level doctoral theses through the discussions with their supervisors.
授業の目的と概要-授業計画	1年次学生は研究テーマの確定のため、2年次学生および3年次学生は博士論文の作成、完成に向け、研究科の学位取得スケジュールに合わせた指導をおこなう。 The supervisors provide a guidance (1) for DC first-year students to determine their research topics (2) for DC second-year and third-year students to generate doctoral theses in accord with the degree program.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション Orientation
授業の目的と概要-2	研究テーマに関する報告と討論 (1) Guidance and discussion on the students' research topics (1)
授業の目的と概要-3	研究テーマに関する報告と討論 (2) Guidance and discussion on the students' research topics (2)
授業の目的と概要-4	研究テーマに関する報告と討論 (3) Guidance and discussion on the students' research topics (3)
授業の目的と概要-5	研究テーマに関する報告と討論 (4) Guidance and discussion on the students' research topics (4)
授業の目的と概要-6	博士論文の構成に関する報告と討論 (1) Guidance and discussion on the composition of the students' doctoral theses (1)
授業の目的と概要-7	博士論文の構成に関する報告と討論 (2) Guidance and discussion on the composition of the students' doctoral theses (2)
授業の目的と概要-8	博士論文の構成に関する報告と討論 (3) Guidance and discussion on the composition of the students' doctoral theses (3)
授業の目的と概要-9	博士論文の構成に関する報告と討論 (4) Guidance and discussion on the composition of the students' doctoral theses (4)
授業の目的と概要-10	博士論文の各章の内容に関する報告と討論 (1) Guidance and discussion on the content of the students' doctoral theses (1)

授業の目的と概要-11	博士論文の各章の内容に関する報告と討論 (2) Guidance and discussion on the content of the students' doctoral theses (2)
授業の目的と概要-12	博士論文の各章の内容に関する報告と討論 (3) Guidance and discussion on the content of the students' doctoral theses (3)
授業の目的と概要-13	博士論文の各章の内容に関する報告と討論 (4) Guidance and discussion on the content of the students' doctoral theses (4)
授業の目的と概要-14	総括 (1) Summary (1)
授業の目的と概要-15	総括 (2) Summary (2)
授業の目的と概要-試験	筆記試験は実施しない。 No paper test will be held.
実務・実践的授業	
成績評価方法	各受講生の研究の進捗状況および研究の内容の深化を総合的に評価する。 Evaluation will be based on the progress of each student's research.
教科書および参考書	教科書は使用しない。参考書は適宜、授業のなかで示す。 No textbooks will be used, although some literature might be recommended in the course if necessary.
授業時間外学修	授業中に課題等を随時指示する。 The students will make necessary preparation for the course.
その他	オフィスアワーについては別途提示する。 Office hours will be announced separately.
更新日付	2026年3月1日
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	応用言語研究特別演習B
曜日・講時	月曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	J E O N G H Y E O N J E O N G、菅谷 奈津恵
科目ナンバリング	K1C-LIN704J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	応用言語研究演習(B) Advanced Seminar in Applied Linguistics B
授業の目的と概要	応用言語研究分野における研究、口頭発表、論文作成のための高度な知識と方法を習得する。 This course aims to get advanced knowledge and method for research, presentation and thesis in applied linguistics.
学修の到達目標	応用言語研究分野において研究、口頭発表、論文作成するための高度な力を身につける。 To get advanced ability for research, presentation and thesis in applied linguistics.
授業の目的と概要-授業計画	学生の研究テーマに応じて、個別的指導、集団的指導、各種発表会を適宜組み合わせることで授業を進め、応用言語研究分野における研究、口頭発表、論文作成のための高度な知識と方法を習得をめざす。 Through individual and collective instructions and presentations, this course aims to get advanced knowledge and method for research, presentation and thesis in applied linguistics.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション orientation
授業の目的と概要-2	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(1) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(1)
授業の目的と概要-3	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(2) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(2)
授業の目的と概要-4	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(3) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(3)
授業の目的と概要-5	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(4) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(4)
授業の目的と概要-6	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(5) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(5)
授業の目的と概要-7	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(6) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(6)
授業の目的と概要-8	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(7) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(7)
授業の目的と概要-9	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(8) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(8)
授業の目的と概要-10	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(9) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(9)

授業の目的と概要-11	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(10) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(10)
授業の目的と概要-12	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(11) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(11)
授業の目的と概要-13	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(12) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(12)
授業の目的と概要-14	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(13) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(13)
授業の目的と概要-15	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(14) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(14)
授業の目的と概要-試験	実施しない。 None
実務・実践的授業	
成績評価方法	授業での発表や討議等によって総合的に判断する。 On the basis of activities
教科書および参考書	必要に応じて指示する。 To set if necessary
授業時間外学修	必要に応じて指示する。 To set if necessary
その他	
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	現代日本メディア・ジェンダー研究特別研究B
曜日・講時	火曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	妙木 忍
科目ナンバリング	KIC-ARS708J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	現代日本におけるメディア・ジェンダー研究の探究 Exploration of Media and Gender Studies in Contemporary Japan
授業の目的と概要	指導教員の指導のもとで、自身の研究を遂行するための力を身に付けることを目的とする。 The purpose of this course is to acquire the skills to conduct research under the guidance of a supervisor.
学修の到達目標	自立して研究をおこなうための能力を身に付ける。 This course is designed to help students develop the ability to conduct research independently.
授業の目的と概要-授業計画	指導教員の指導のもとで、自身の研究を進め、質を高めていく。 This course aims to help students advance their own research and improve its quality under the guidance of a supervisor.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション Orientation
授業の目的と概要-2	研究指導 (1) Research supervision (1)
授業の目的と概要-3	研究指導 (2) Research supervision (2)
授業の目的と概要-4	研究指導 (3) Research supervision (3)
授業の目的と概要-5	研究指導 (4) Research supervision (4)
授業の目的と概要-6	研究指導 (5) Research supervision (5)
授業の目的と概要-7	研究指導 (6) Research supervision (6)
授業の目的と概要-8	研究指導 (7) Research supervision (7)
授業の目的と概要-9	研究指導 (8) Research supervision (8)
授業の目的と概要-10	研究指導 (9) Research supervision (9)

授業の目的と概要-11	研究指導 (10) Research supervision (10)
授業の目的と概要-12	研究指導 (11) Research supervision (11)
授業の目的と概要-13	研究指導 (12) Research supervision (12)
授業の目的と概要-14	研究指導 (13) Research supervision (13)
授業の目的と概要-15	研究指導 (14) Research supervision (14)
授業の目的と概要-試験	試験はおこなわない。 No examination
実務・実践的授業	
成績評価方法	研究の進捗状況および討論内容に基づいて総合的に評価する。 Participants will be comprehensively evaluated based on the progress of their research and the content of their discussions.
教科書および参考書	参考文献は適宜紹介する。 Reference materials will be introduced as necessary.
授業時間外学修	自身の研究に必要な準備をおこなう。 Students are required to prepare what is necessary for their own research.
その他	
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	国際政治経済論特別研究B
曜日・講時	火曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	大窪 和明
科目ナンバリング	KIC-IPE702J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	国際政治経済関係の応用研究B Advanced research on International Politics and Economics B
授業の目的と概要	国際政治関係、国際経済関係をテーマにした研究を行う受講生に対し、研究指導を行う。 Supervisions for students of the Department of International Politics and Economics.
学修の到達目標	受講生各自の研究が既に到達した進捗段階からさらに一段進み、その結果を論文としてまとめること。 Student are required to advance their research beyond what they have achieved, and expected to complete their own academic works.
授業の目的と概要-授業計画	研究内容に関する相談受け付け、問題点の指摘、指導を行い、研究の方向性を明確化する。 Discussions and consultations on the problems the students encountered, and the clarification of the directions of students' research.
授業の目的と概要-1	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-2	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-3	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-4	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-5	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-6	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-7	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-8	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-9	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-10	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.

授業の目的と概要-11	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-12	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-13	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-14	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-15	研究内容と論文に関する相談、問題点の指摘、指導。 Discussions and supervisions on students' research and works.
授業の目的と概要-試験	なし。 N. A.
実務・実践的授業	
成績評価方法	研究の進捗度合いと研究結果をまとめた論文の完成度合い。 The progress of students' research and their academic works
教科書および参考書	特になし。 N. A.
授業時間外学修	研究作業と必要な分析手法の習得 Preparations for a class meeting and the writing up of academic works.
その他	特になし。 N. A.
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	言語科学研究特別研究B
曜日・講時	火曜6限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	中本 武志
科目ナンバリング	K1C-LIN702J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	言語科学研究のための個別指導 (2) Individual Tutoring in Language Research (2)
授業の目的と概要	各受講者あるいは受講者グループの研究トピックやそれに関連する事項について専門的な考察・検討を行う。 これにより、博士論文執筆や学会発表に向けて個別的な指導を受けることを目的とする。 In this course, the students professionally consider the issues on their research topics and related matters, and at the same time they will get individual research guidance from their supervisors to prepare for their doctoral theses and conference presentations.
学修の到達目標	受講者はこの授業を通して、各自の研究トピックや関連する事項についての理解を深め、文献調査・研究発表・博士論文執筆などの方法に熟達する。 In this course, the students will deepen their understanding of their own research topics and matters related to them, and master the necessary skills and ability for literature examination, conference presentation, writing doctoral theses, etc.
授業の目的と概要-授業計画	学期のはじめにスケジュールを発表する。 The schedule of the course will be announced at the beginning of the course.
授業の目的と概要-1	個別またはグループによる研究指導(1) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (1)
授業の目的と概要-2	個別またはグループによる研究指導(2) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (2)
授業の目的と概要-3	個別またはグループによる研究指導(3) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (3)
授業の目的と概要-4	個別またはグループによる研究指導(4) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (4)
授業の目的と概要-5	個別またはグループによる研究指導(5) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (5)
授業の目的と概要-6	個別またはグループによる研究指導(6) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (6)
授業の目的と概要-7	個別またはグループによる研究指導(7) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (7)
授業の目的と概要-8	個別またはグループによる研究指導(8) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (8)
授業の目的と概要-9	個別またはグループによる研究指導(9) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (9)
授業の目的と概要-10	個別またはグループによる研究指導(10) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (10)

授業の目的と概要-11	個別またはグループによる研究指導(11) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (11)
授業の目的と概要-12	個別またはグループによる研究指導(12) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (12)
授業の目的と概要-13	個別またはグループによる研究指導(13) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (13)
授業の目的と概要-14	個別またはグループによる研究指導(14) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (14)
授業の目的と概要-15	個別またはグループによる研究指導(15) Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (15)
授業の目的と概要-試験	試験は行わない。 The students will have no examination.
実務・実践的授業	
成績評価方法	受講者各自の研究についての発表、関連文献の理解、討議への参加を総合的に評価する。 Evaluation will be based on each student's presentation of their research, understanding of the relevant literature, and participation in the discussion.
教科書および参考書	使用しない。必要な場合は授業中に指示する。 No textbooks will be used. Some literature might be recommended in the course if necessary.
授業時間外学修	学生は個別またはグループによる研究指導を受けるために必要な準備を行う。 The students will make necessary preparation for the course.
その他	なし Nothing
更新日付	2026/02/24 11:15:27
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	応用言語研究特別研究B
曜日・講時	火曜6限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	J E O N G H Y E O N J E O N G、菅谷 奈津恵
科目ナンバリング	KIC-LIN705J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	応用言語研究特別研究(B) Advanced Research in Applied Linguistics B
授業の目的と概要	応用言語研究分野における研究、口頭発表、論文作成のための高度な知識と方法を習得する。 This course aims to get advanced knowledge and method for research, presentation and thesis in applied linguistics.
学修の到達目標	応用言語研究分野において研究、口頭発表、論文作成するための高度な力を身につける。 To get advanced ability for research, presentation and thesis in applied linguistics.
授業の目的と概要-授業計画	学生の研究テーマに応じて、個別的指導、集団的指導、各種発表会を適宜組み合わせることで授業を進め、応用言語研究分野における研究、口頭発表、論文作成のための高度な知識と方法の習得をめざす。 Through individual and collective instructions and presentations, this course aims to get advanced knowledge and method for research, presentation and thesis in applied linguistics.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション orientation
授業の目的と概要-2	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(1) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(1)
授業の目的と概要-3	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(2) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(2)
授業の目的と概要-4	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(3) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(3)
授業の目的と概要-5	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(4) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(4)
授業の目的と概要-6	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(5) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(5)
授業の目的と概要-7	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(6) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(6)
授業の目的と概要-8	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(7) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(7)
授業の目的と概要-9	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(8) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(8)
授業の目的と概要-10	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(9) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(9)

授業の目的と概要-11	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(10) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(10)
授業の目的と概要-12	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(11) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(11)
授業の目的と概要-13	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(12) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(12)
授業の目的と概要-14	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(13) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(13)
授業の目的と概要-15	応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(14) advanced knowledge and method for research in applied linguistics(14)
授業の目的と概要-試験	実施しない。 None
実務・実践的授業	
成績評価方法	授業での発表や討議等によって総合的に判断する。 On the basis of activities
教科書および参考書	必要に応じて指示する。 To set if necessary
授業時間外学修	必要に応じて指示する。 To set if necessary
その他	
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	言語科学研究特別演習B
曜日・講時	木曜2限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	中本 武志
科目ナンバリング	K10-LIN701J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	言語科学研究の方法論と実践 (2) Methodology and Practice in Language Sciences (2)
授業の目的と概要	受講者がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて参加者全員で討議する。これにより、言語科学分野における研究の方法論や発表の仕方などに習熟して、博士論文を完成し、各種学会で発表する能力を育む。 In this course, the students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and the others will discuss them. Thereby, the students will acquire the necessary methodology and skills to conduct research in language science and to present the results, to complete a doctoral thesis, and to make presentations at academic conferences.
学修の到達目標	受講者はこの授業を通して、主として次のような研究に必要な方法や技術を学ぶ。 1. 研究テーマを設定し、そのテーマに関する先行研究を批判的に検討すること。 2. 設定した問題に対する解決方法を論理的に構成すること。 3. 適切なデータを収集し、分析すること。 4. 研究結果をまとめ、説得力をもった発表を行うこと。 5. 他の受講者の発表を正確に理解し、批評的かつ建設的に評価すること。  In this course, the students will acquire the necessary methodology and skills to conduct research in language science, such as the following: 1. to set a research topic and to critically review previous works on the topic 2. to work out a way to solve issues on the research topic through logical argumentation 3. to collect necessary data and to appropriately analyze them 4. to put the results together into a research report and to persuasively present it 5. to correctly understand other students' presentations and to review them both critically and constructively
授業の目的と概要-授業計画	学期のはじめに発表スケジュールを発表する。 The schedule of the student presentations will be announced by the beginning of the course.
授業の目的と概要-1	学生による発表とそれに関する討議1 Presentations by the 1st and 2nd students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-2	学生による発表とそれに関する討議2 Presentations by the 3rd and 4th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-3	学生による発表とそれに関する討議3 Presentations by the 5th and 6th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-4	学生による発表とそれに関する討議4 Presentations by the 7th and 8th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-5	学生による発表とそれに関する討議5 Presentations by the 9th and 10th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-6	学生による発表とそれに関する討議6 Presentations by the 11th and 12th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-7	学生による発表とそれに関する討議7 Presentations by the 13th and 14th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-8	学生による発表とそれに関する討議8 Presentations by the 15th and 16th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-9	学生による発表とそれに関する討議9 Presentations by the 17th and 18th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-10	学生による発表とそれに関する討議10 Presentations by the 19th and 20th students, after each of which there will be a discussion by all.

授業の目的と概要-11	学生による発表とそれに関する討論 1 1 Presentations by the 21st and 22nd students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-12	学生による発表とそれに関する討論 1 2 Presentations by the 23rd and 24th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-13	学生による発表とそれに関する討論 1 3 Presentations by the 25th and 26th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-14	学生による発表とそれに関する討論 1 4 Presentations by the 27th and 28th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-15	学生による発表とそれに関する討論 1 5 Presentations by the 29th and 30th students, after each of which there will be a discussion by all.
授業の目的と概要-試験	この授業は受講者がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて参加者全員で討議することにより、言語科学分野における研究の方法論や発表の仕方などに習熟することを目的とするので試験は行わない。 In this course, the students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and the others will discuss them. Thereby, the students will acquire the necessary methodology and skills to conduct research in language science and to present the results. Therefore, there will be no exam.
実務・実践的授業	
成績評価方法	口頭発表および授業中の討議への参加を評価する。 Evaluation will be based on the presentation and participation in the discussion.
教科書および参考書	使用しない。必要な場合は授業中に指示する。 No textbooks will be used, although some literature might be recommended in the course if necessary.
授業時間外学修	学生は自分の発表予定日に向けて先行研究や自分の論考を分かりやすくまとめ、また発表用スライドを準備する。 The students have to prepare the presentation on the designated day, including presentation slides.
その他	なし None
更新日付	2026/02/24 11:29:05
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	アジア・アフリカ研究特別講義B
曜日・講時	木曜3限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	大河原 知樹
科目ナンバリング	KIC-ARS706J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	アジア・アフリカ研究の諸問題B Critical Examination of Asian and African Studies B
授業の目的と概要	アジア・アフリカ、とくに中国とイスラーム圏の政治、社会、文化の特徴とその変容過程について、主要な論文、著書の精読を通じて批判的に理解することを目的とする。 Students are expected to understand characteristics and transformations of Asian and African Area by investigating the related articles and monographs in critical ways.
学修の到達目標	対象地域の現在の政治、社会、文化を理解する上で基本的かつ重要なファクターを概観し、かつこれらを現実の社会的文脈の中に批判的に検証する学問的な効果やスキルの修得を目指す。 Students are expected to survey the fundamental and significant factors in understanding the present politics, society and culture of the area under their study and should improve their critical abilities and academic skills in the actual social context.
授業の目的と概要-授業計画	この分野における碩学の意見、考え方を批判的に理解・検討することの重要性を理解する。 Understand the importance of critically reviewing the opinions and ideas of great scholars in the field.
授業の目的と概要-1	アジア・アフリカ研究の諸問題B 1 Issues in Asian and African Studies B1
授業の目的と概要-2	アジア・アフリカ研究の諸問題B 2 Issues in Asian and African Studies B2
授業の目的と概要-3	アジア・アフリカ研究の諸問題B 3 Issues in Asian and African Studies B3
授業の目的と概要-4	アジア・アフリカ研究の諸問題B 4 Issues in Asian and African Studies B4
授業の目的と概要-5	アジア・アフリカ研究の諸問題B 5 Issues in Asian and African Studies B5
授業の目的と概要-6	アジア・アフリカ研究の諸問題B 6 Issues in Asian and African Studies B6
授業の目的と概要-7	アジア・アフリカ研究の諸問題B 7 Issues in Asian and African Studies B7
授業の目的と概要-8	アジア・アフリカ研究の諸問題B 8 Issues in Asian and African Studies B8
授業の目的と概要-9	アジア・アフリカ研究の諸問題B 9 Issues in Asian and African Studies B9
授業の目的と概要-10	アジア・アフリカ研究の諸問題B10 Issues in Asian and African Studies B10

授業の目的と概要-11	アジア・アフリカ研究の諸問題B11 Issues in Asian and African Studies B11
授業の目的と概要-12	アジア・アフリカ研究の諸問題B12 Issues in Asian and African Studies B12
授業の目的と概要-13	アジア・アフリカ研究の諸問題B13 Issues in Asian and African Studies B13
授業の目的と概要-14	アジア・アフリカ研究の諸問題B14 Issues in Asian and African Studies B14
授業の目的と概要-15	アジア・アフリカ研究の諸問題B15 Issues in Asian and African Studies B15
授業の目的と概要-試験	報告者による報告および報告内容に関して、教員と学生が討論を行う。 Discussion among faculty and students about the presenter's report and the content of the report.
実務・実践的授業	
成績評価方法	授業での報告と討論への参加を総合的に評価して行う。 We will evaluate the presentations and discussions at classes comprehensively.
教科書および参考書	適宜、プリントを配布。講義の中で適宜指示する。 We will distribute related reference materials and designate important references whenever necessary in the lectures.
授業時間外学修	レジュメの準備、討論の内容整理が必須。 Preparation of resumes and organization of discussions are essential.
その他	とくになし。 Nothing in particular.
更新日付	2024/02/21 12:10:52
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	環境資源政策論特別講義B
曜日・講時	木曜3限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	青木 俊明
科目ナンバリング	KIC-OS0706J
使用言語	日本語と英語 Japanese and English
メディア授業科目	
授業題目	環境資源政策論特別講義B Special Lectures on Environment and Resources Policy B
授業の目的と概要	環境資源政策に関する研究を進める上で重要な文献や事例を取り上げ、それらの背景や問題意識、手法上の特徴、意義や課題等について調査・検証する。取り上げる文献及び事例については、履修者の人数や関心に応じて、教員ないし学生の提案に基づいて選定する。特別講義Bにおいては、環境資源政策と技術開発の関わり等について取り上げる予定。 This course examines the backgrounds, methodologies, significance, and challenges of the literature and cases that are important in research on environment and resources policy. The literature and cases will be selected based on lecturers' suggestions or students' proposals considering the number and interests of the students. The Special Lectures A will deal with the issues on the influences of technology development and resources policy.
学修の到達目標	自己の研究に関連する文献を読み、その長所や短所を適切に説明できるようになること。これにより、優れた研究論文に対する評価軸を修得する。 Students should be able to read literature related to their own research and be able to adequately explain its strengths and weaknesses. In this way, students will acquire an evaluation axis for excellent research papers.
授業の目的と概要-授業計画	環境資源政策に関する研究を進める上で重要な文献や事例を取り上げ、それらの背景や問題意識、手法上の特徴、意義や課題等について調査・検証する。取り上げる文献及び事例については、履修者の人数や関心に応じて、教員ないし学生の提案に基づいて選定する。特別講義Bにおいては、環境資源政策と技術開発の関わり等について取り上げる予定。 This course examines the backgrounds, methodologies, significance, and challenges of the literature and cases that are important in research on environment and resources policy. The literature and cases will be selected based on lecturers' suggestions or students' proposals considering the number and interests of the students. The Special Lectures B will deal with the issues on environmental resource policy and technology development.
授業の目的と概要-1	イントロダクション Introduction
授業の目的と概要-2	基礎文献の講読 Basic literature
授業の目的と概要-3	基礎文献の講読 Basic literature
授業の目的と概要-4	基礎文献の講読 Basic literature
授業の目的と概要-5	対象事例の選定・調査内容の設定 Selection of cases and research topics
授業の目的と概要-6	関連文献の講読・比較検討 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-7	関連文献の講読・比較検討 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-8	関連文献の講読・比較検討 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-9	事例研究の中間発表 Interim presentations on case studies
授業の目的と概要-10	関連文献の講読・比較考察 Comparative analysis of related literature

授業の目的と概要-11	関連文献の講読・比較考察 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-12	関連文献の講読・比較考察 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-13	研究成果の発表 Presentations
授業の目的と概要-14	研究成果の発表 Presentations
授業の目的と概要-15	研究成果の発表 Presentations
授業の目的と概要-試験	期末試験は行わない。 No final examination
実務・実践的授業	
成績評価方法	発表内容（発表資料を含む）50%、出席20%、授業への積極的な貢献30% Presentation, including Presentation Materials:50%, Class Attendance:20%, Active contributions in class:30%
教科書および参考書	授業において適宜参考文献リストを配布。 Reference lists will be shown in the class as needed.
授業時間外学修	積極的に他の研究者と議論を行うこと。直接的には関係しない分野の文献も含め、できるだけ多くの文献を読むこと。さらに、最新の分析手法やそれに関する知見についても、十分に修得しておくこと。 It is desirable to actively engage in discussions with other researchers. Read as much literature as possible, including literature from fields not directly related to your field. In addition, students should be well versed in the latest analytical methods and knowledge about them.
その他	特になし NA
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	ヨーロッパ・アメリカ研究特別演習B
曜日・講時	木曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	寺本 成彦
科目ナンバリング	KIC-ARS701J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	ヨーロッパ・アメリカ研究の展開 (2026-2) The Deepening of European and American Studies (2026-2)
授業の目的と概要	ヨーロッパ、およびアメリカの文学・歴史・社会・文化を研究対象とする学生の博士論文作成に向け、受講生が研究報告をおこない、その報告に関する質疑応答や意見交換を出席者全員でおこなう。 In this course the students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and the others will discuss them. Thereby the students will acquire the necessary skills to conduct research in European and American studies and to present the results.
学修の到達目標	研究報告ならびに議論をつうじ、学術研究の方法を習得するとともに、完成度の高い博士論文を作成する能力を身につけること。 In this course the students will acquire (1) the necessary skills to conduct research in European and American studies (2) the ability to generate a high-level doctoral thesis.
授業の目的と概要-授業計画	博士論文の完成に向け、研究科の学位取得スケジュールに合わせた研究報告をおこなう。 The students make several presentations in accord with the degree program.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション Orientation
授業の目的と概要-2	研究発表と議論 (1) Presentations and Discussions (1)
授業の目的と概要-3	研究発表と議論 (2) Presentations and Discussions (2)
授業の目的と概要-4	研究発表と議論 (3) Presentations and Discussions (3)
授業の目的と概要-5	研究発表と議論 (4) Presentations and Discussions (4)
授業の目的と概要-6	研究発表と議論 (5) Presentations and Discussions (5)
授業の目的と概要-7	研究発表と議論 (6) Presentations and Discussions (6)
授業の目的と概要-8	研究発表と議論 (7) Presentations and Discussions (7)
授業の目的と概要-9	研究発表と議論 (8) Presentations and Discussions (8)
授業の目的と概要-10	研究発表と議論 (9) Presentations and Discussions (9)

授業の目的と概要-11	研究発表と議論 (10) Presentations and Discussions (10)
授業の目的と概要-12	研究発表と議論 (11) Presentations and Discussions (11)
授業の目的と概要-13	研究発表と議論 (12) Presentations and Discussions (12)
授業の目的と概要-14	研究発表と議論 (13) Presentations and Discussions (13)
授業の目的と概要-15	研究発表と議論 (14) Presentations and Discussions (14)
授業の目的と概要-試験	筆記試験は行わない。 No paper test will be held.
実務・実践的授業	
成績評価方法	研究報告内容および議論への参加度を総合的に評価する。 Evaluation will be based on the presentation and participation in the discussion.
教科書および参考書	教科書は使用しない。参考書は適宜、授業のなかで示す。 No textbooks will be used, although some literature might be recommended in the course if necessary.
授業時間外学修	学生は自分の発表の際に用いるハンドアウトを決められた日までに提出すること。 The students have to submit their handouts on the designated day.
その他	オフィスアワーについては別途提示する。 Office hours will be announced separately.
更新日付	2026年3月1日
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	アジア・アフリカ研究特別演習B
曜日・講時	木曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	大河原 知樹
科目ナンバリング	KIC-ARS704J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定B Research Topics of Asian and African Studies B
授業の目的と概要	学生各自がそれぞれの研究テーマに即して報告・発表を行い、それをめぐって参加者全員が分析・討論を行う。 Students are encouraged to report and present their own research achievements according to each one's research topic and all the participants will take part in the discussion about their presentations in every seminar.
学修の到達目標	院生が自らの研究を日本内外の研究状況と比較検討し、その研究テーマの斬新性、意義、その分析手法の特徴などを発表する。他の学生は発表についての確に理解し批評する能力を養う。その上に立って、とくに研究課題の設定とその分析の手法、論理的展開の手法、論文の作成と研究成果の発表方法などを習得する。 Students are expected to compare and assess their own research in the context of domestic and foreign research survey and present their features, uniqueness and significance of methodology. They should understand correctly the presentations of other students and improve their critical abilities as well. By doing so, they will acquire the setting of topics, the analytical methods, the know-how about writing the articles and the presentations of their research achievements.
授業の目的と概要-授業計画	学生の研究報告とこれに関する討論(質疑・応答)を中心に行う。 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法 2) レジユメの作成、発表の方法、討論の仕方 3) 論文(論文発表である場合) The class will focus on student research reports and discussions (questions and answers) related to the reports. 1) How to analyze and critically examine research materials 2) How to prepare resumes, make presentations, and hold discussions 3) Thesis (if it is a paper presentation)
授業の目的と概要-1	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定B 1 Current Status and Issues of Asian and African Studies B1
授業の目的と概要-2	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定B 2 Current Status and Issues of Asian and African Studies B2
授業の目的と概要-3	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定B 3 Current Status and Issues of Asian and African Studies B3
授業の目的と概要-4	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定B 4 Current Status and Issues of Asian and African Studies B4
授業の目的と概要-5	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定B 5 Current Status and Issues of Asian and African Studies B5
授業の目的と概要-6	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定B 6 Current Status and Issues of Asian and African Studies B6
授業の目的と概要-7	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定B 7 Current Status and Issues of Asian and African Studies B7
授業の目的と概要-8	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定B 8 Current Status and Issues of Asian and African Studies B8
授業の目的と概要-9	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定B 9 Current Status and Issues of Asian and African Studies B9

授業の目的と概要-10	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定B10 Current Status and Issues of Asian and African Studies B10
授業の目的と概要-11	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定B11 Current Status and Issues of Asian and African Studies B11
授業の目的と概要-12	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定B12 Current Status and Issues of Asian and African Studies B12
授業の目的と概要-13	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定B13 Current Status and Issues of Asian and African Studies B13
授業の目的と概要-14	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定B14 Current Status and Issues of Asian and African Studies B14
授業の目的と概要-15	アジア・アフリカ研究の現状と課題設定B15 Current Status and Issues of Asian and African Studies B15
授業の目的と概要-試験	学生の研究報告とこれに関する討論（質疑・応答）から以下を評価する。 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法 2) レジユメの作成、発表の方法、討議の仕方 3) 論文（論文発表である場合） The following will be evaluated from student research reports and related discussions (questions and answers). 1) How to analyze and critically examine research materials 2) Resume preparation, presentation methods, and discussion methods 3) Thesis (if it is a paper presentation)
実務・実践的授業	
成績評価方法	演習での発表・報告と討論の内容によって、総合的に評価する。 We will evaluate the presentations and discussions at seminars comprehensively.
教科書および参考書	資料は発表者が作成・配布する。参考書は演習の中で随時指示する。 Student presenters are required to prepare and distribute their own handouts and reference materials. We will designate related references whenever necessary.
授業時間外学修	レジユメの準備、討論の内容整理が必須。 Preparation of resumes and organization of discussions are essential.
その他	とくになし。 Nothing in particular.
更新日付	2024/02/21 12:04:19
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	現代日本メディア・ジェンダー研究特別演習B
曜日・講時	木曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	妙木 忍
科目ナンバリング	KIC-ARS726J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	現代日本におけるメディア・ジェンダー研究の実践 The Practice of Media and Gender Studies in Contemporary Japan
授業の目的と概要	受講生が自身の研究テーマを発表し、全員で討論をおこなう。研究内容や研究方法についても検討する。 The purpose of this course is for students to present their own research and engage in discussions. It also aims to help students consider their research content and methods.
学修の到達目標	自身の研究の質を向上させる。討論を通してコメントする力を身に付ける。他の受講生の研究内容や討論内容からも新たな知見を得る。 This course is designed to help students improve the quality of their own research. It will help students develop the skills to comment on others' research through discussions. It also aims to help students gain new insights from the other participants' research and discussions.
授業の目的と概要-授業計画	発表者は期日までにレジュメを配布し、発表をおこなう。その後、全員で討論する。 Presenters will distribute their presentation documents via email before the due date. Each participant will present their own research topic, and all participants will engage in discussions.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション Orientation
授業の目的と概要-2	発表および討論 (1) Presentation and discussion (1)
授業の目的と概要-3	発表および討論 (2) Presentation and discussion (2)
授業の目的と概要-4	発表および討論 (3) Presentation and discussion (3)
授業の目的と概要-5	発表および討論 (4) Presentation and discussion (4)
授業の目的と概要-6	発表および討論 (5) Presentation and discussion (5)
授業の目的と概要-7	発表および討論 (6) Presentation and discussion (6)
授業の目的と概要-8	発表および討論 (7) Presentation and discussion (7)
授業の目的と概要-9	発表および討論 (8) Presentation and discussion (8)
授業の目的と概要-10	発表および討論 (9) Presentation and discussion (9)

授業の目的と概要-11	発表および討論 (10) Presentation and discussion (10)
授業の目的と概要-12	発表および討論 (11) Presentation and discussion (11)
授業の目的と概要-13	発表および討論 (12) Presentation and discussion (12)
授業の目的と概要-14	発表および討論 (13) Presentation and discussion (13)
授業の目的と概要-15	発表および討論 (14) Presentation and discussion (14)
授業の目的と概要-試験	試験はおこなわない。 No examination
実務・実践的授業	
成績評価方法	参加度 (50%)、発表 (50%) Participation (50%), Presentation (50%)
教科書および参考書	参考文献は適宜紹介する。 Reference materials will be introduced as necessary.
授業時間外学修	発表の準備をする。また、授業までに他の発表者のレジュメを読んでくる。 Preparation for the presentation will be required. Students are also required to read the documentation of other presenters before the class.
その他	レジュメは発表する週の月曜日までに配布すること。 The presenter should distribute their presentation documents by the Monday of the week of the presentation.
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	国際政治経済論特別演習B
曜日・講時	木曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC）
単位数	2単位
担当教員	大窪 和明
科目ナンバリング	KIC-IPE701J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	国際政治経済関係研究の実践 B Practices of the research on International Politics and Economics B
授業の目的と概要	受講生各自がそれぞれの研究テーマに即して、報告・発表を行い、それをめぐって参加者全員で分析・討論を行う。受講生が国際政治経済の特質、研究対象、研究方法の基礎を学び、それぞれの問題意識をもとに教員による研究・論文作成の指導を受ける。 The students make presentations on each topic, and exchange views on it. They are requested to learn the essence, topics and methodologies of IPE, and to have tuitions by their supervisors.
学修の到達目標	受講生が自らの研究を日本国内外の研究状況と比較検討し、その研究テーマの斬新性（創造性）、意義、その分析手法の特徴などを発表する。特に、この総合演習において研究課題の設定、研究資料の収集と扱い、分析の手法、論理的な展開の手法、論文作成に必要な知識と研究成果のプレゼンテーション能力を習得する。また、他の学生は発表についての確に理解し、他者に対する討議の仕方、批判的検討の方法を学び、批評する能力を身につける。 The students are requested to examine their own research by comparing with existing works in Japan and overseas, and to present the originalities and characteristics of such works. In particular, they are requested to understand how to set up research topics, how to interpret resources and how to present and develop analytical framework. The other attendants are requested to understand the content of the presentations, and to learn how to discuss others' topics and acquire a capability to review others' argument.
授業の目的と概要-授業計画	一人あるいは数人の受講生の研究報告と、これに関する検討(質疑、応答)を中心に行う。 Presentations by one or multiple students, and discussions on them.
授業の目的と概要-1	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-2	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-3	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-4	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-5	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-6	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-7	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-8	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-9	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-10	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.

授業の目的と概要-11	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-12	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-13	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-14	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-15	受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。 Students' presentations and supervisions.
授業の目的と概要-試験	演習でのパフォーマンス（下記のような諸事項）による考査。 1. 研究資料の収集と扱い方、分析手法、レジュメの作成、発表の方法、 2. 他者に対する討議の仕方、批判的検討の方法 3. 論文の書き方  The grades will be judged on the following bases. 1. How the students deal with research materials, research skills, presentation skills and so on 2. How the students give their own views on others' presentations 3. The contents of the students' dissertations.
実務・実践的授業	
成績評価方法	出席、演習での発表・報告と討論の内容に基づき、総合的に評価する。 Presentations and class participation.
教科書および参考書	教科書は特に指定しない。発表者が資料を作成し参加者全員に配布する。参考書は演習の中で随時指示する。 No specific textbooks. Presenters are requested to make and distribute their handouts. Suggestions are made on referenced materials where necessary.
授業時間外学修	レジュメあるいはPPTの作成、討論内容の整理が必須である。 Students are requested to produce handouts and/or PPTs while making efforts to conceptualise their research contents.
その他	特になし。 N.A.
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	国際環境資源政策論特別演習B
曜日・講時	木曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC）
単位数	2単位
担当教員	青木 俊明
科目ナンバリング	KIC-OS0704J
使用言語	日本語と英語 Japanese and English
メディア授業科目	
授業題目	国際環境資源政策論特別演習B Special Seminar of International Environmental Resource Policy B
授業の目的と概要	国際環境資源政策論分野の研究を行っている大学院生の研究活動に対し、幅広い研究視点にもとづいたアドバイスを与え、研究方法の確立と研究発表能力向上のための研究指導を行う。また、各自の研究テーマにおける研究背景と問題意識を具体化し、研究目的を明確にする。 This course gives useful advices to graduate students for the field of international environmental resource policy research based on broad viewpoint. The aims of this course are to master research methodologies and improve presentation skills. Students are expected to make their own research backgrounds, issues and goals clearer.
学修の到達目標	自分の研究について、学術的背景や社会的必要性も含め、自分の言葉で適切に説明できるようになること。特に、自己の研究の学術的貢献については、明確に説明できるようになること。Students are expected to be able to explain their research contents including their academic backgroundss and social necessity in their own words. In particular, they should be able to clearly explain the academic contributions of their own research.
授業の目的と概要-授業計画	プレゼンテーションや教員とのディスカッションを通じて、自立した研究者となるために必要なスキルの修得を行う。 Through presentations and discussions with instructors, students are required to acquire the skills necessary to become independent researchers.
授業の目的と概要-1	イントロダクション Introduction
授業の目的と概要-2	基礎文献の講読 Basic literature
授業の目的と概要-3	基礎文献の講読 Basic literature
授業の目的と概要-4	基礎文献の講読 Basic literature
授業の目的と概要-5	対象事例の選定・調査内容の設定 Selection of cases and research topics
授業の目的と概要-6	関連文献の講読・比較検討 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-7	関連文献の講読・比較検討 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-8	関連文献の講読・比較検討 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-9	事例研究の中間発表 Interim presentations on case studies
授業の目的と概要-10	関連文献の講読・比較考察 Comparative analysis of related literature

授業の目的と概要-11	関連文献の講読・比較考察 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-12	関連文献の講読・比較考察 Comparative analysis of related literature
授業の目的と概要-13	研究成果の発表 Presentations
授業の目的と概要-14	研究成果の発表 Presentations
授業の目的と概要-15	研究成果の発表 Presentations
授業の目的と概要-試験	期末試験は行わない。 No final examination
実務・実践的授業	
成績評価方法	発表内容（発表資料を含む）50%、出席20%、授業への積極的な貢献30% Presentation, including Presentation Materials:50%, Class Attendance:20%, Active contributions in class:30%
教科書および参考書	授業において適宜参考文献リストを配布。 Reference lists will be shown in the class as needed.
授業時間外学修	積極的に他の研究者と議論を行うこと。直接的には関係しない分野の文献も含め、できるだけ多くの文献を読むこと。さらに、最新の分析手法やそれに関する知見についても、十分に修得しておくこと。 It is desirable to actively engage in discussions with other researchers. Read as much literature as possible, including literature from fields not directly related to your field. In addition, students should be well versed in the latest analytical methods and knowledge about them.
その他	特になし NA
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	ヨーロッパ・アメリカ研究特別講義B
曜日・講時	木曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	寺本 成彦
科目ナンバリング	KIC-ARS703J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	ヨーロッパ・アメリカ文化の総合的・学際的把握 (2026-2) Comprehensive and Interdisciplinary Understanding of European/American Culture (2026-2)
授業の目的と概要	文学および歴史学を専門とする教員によるオムニバス方式の講義をつうじて、ヨーロッパ・アメリカ地域が個別的に直面してきた諸問題を比較検討することにより、広い意味でのヨーロッパ・アメリカ文化の特質を解明する。 In this course, lecturers who study literature and history elucidate the characteristics of European/American culture with a comparative perspective.
学修の到達目標	総合的、学際的なアプローチをつうじて、過去および現在におけるヨーロッパ・アメリカ文化の特質を把握すること。 In this course the students will get a deep understanding on the characteristics of European/American culture.
授業の目的と概要-授業計画	ヨーロッパ・アメリカ文化に関する共通のテーマのもとに、各教員の専門性を生かしたオムニバス方式でおこなう。 This course will be done in omnibus form.
授業の目的と概要-1	講義と議論 (1-1) Lecture and discussion on the topic (1-1)
授業の目的と概要-2	講義と議論 (1-2) Lecture and discussion on the topic (1-2)
授業の目的と概要-3	講義と議論 (1-3) Lecture and discussion on the topic (1-3)
授業の目的と概要-4	講義と議論 (1-4) Lecture and discussion on the topic (1-4)
授業の目的と概要-5	講義と議論 (1-5) Lecture and discussion on the topic (1-5)
授業の目的と概要-6	講義と議論 (2-1) Lecture and discussion on the topic (2-1)
授業の目的と概要-7	講義と議論 (2-2) Lecture and discussion on the topic (2-2)
授業の目的と概要-8	講義と議論 (2-3) Lecture and discussion on the topic (2-3)
授業の目的と概要-9	講義と議論 (2-4) Lecture and discussion on the topic (2-4)
授業の目的と概要-10	講義と議論 (2-5) Lecture and discussion on the topic (2-5)

授業の目的と概要-11	講義と議論 (3-1) Lecture and discussion on the topic (3-1)
授業の目的と概要-12	講義と議論 (3-2) Lecture and discussion on the topic (3-2)
授業の目的と概要-13	講義と議論 (3-3) Lecture and discussion on the topic (3-3)
授業の目的と概要-14	講義と議論 (3-4) Lecture and discussion on the topic (3-4)
授業の目的と概要-15	講義と議論 (3-5) Lecture and discussion on the topic (3-5)
授業の目的と概要-試験	筆記試験は行わない。 No paper test will be held.
実務・実践的授業	
成績評価方法	各教員が課すレポートを総合的に判断する。 Evaluation will be determined by assigned reports.
教科書および参考書	適宜、授業のなかで示す。 Necessary literature will be designated in the course by each instructor.
授業時間外学修	授業中に課題等を随時指示する。 Necessary task or work will be designated in the course by each instructor.
その他	オフィスアワーについては別途提示する。 Office hours will be announced separately.
更新日付	2026年3月1日
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	アジア・アフリカ研究特別研究B
曜日・講時	木曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	大河原 知樹
科目ナンバリング	K1C-ARS705J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	アジア・アフリカ研究の現状と分析B Research Approaches to Asian and African Studies B
授業の目的と概要	<p>学生各自がそれぞれの研究テーマに即して報告・発表を行い、それをめぐって参加者全員が分析・討論を行う。随時、学生のテーマに応じて、数名ずつの分科会方式を採用する。</p> <p>Students are encouraged to report and present their own research achievements according to each one's research topic and all the participants will take part in the discussion about their presentations in every seminar.</p>
学修の到達目標	<p>院生が自らの研究を日本内外の研究状況と比較検討し、その研究テーマの斬新性、意義、その分析手法の特徴などを発表する。他の学生は発表についての確に理解し批評する能力を養う。その上に立って、とくに研究課題の設定とその分析の手法、論理的展開の手法、論文の作成と研究成果の発表方法などを習得する。</p> <p>Students are expected to compare and assess their own research in the context of domestic and foreign reserch survey and present their features, uniqueness and significance of methodology. They should understand correctly the presentations of other students and improve their critical abilities as well. By doing so, they will acquire the setting of topics, the analytical methods, the know-how about writing the articles and the presentations of their reasearch achievements.</p>
授業の目的と概要-授業計画	<p>学生の研究報告とこれに関する討論(質疑・応答)を中心に行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究資料の分析・批判的検討の方法</li> <li>2) レジューメの作成、発表の方法、討論の仕方</li> <li>3) 論文(論文発表である場合)</li> </ol> <p>The class will focus on student research reports and discussions (questions and answers) related to the reports.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) How to analyze and critically examine research materials</li> <li>2) How to prepare resumes, make presentations, and hold discussions</li> <li>3) Thesis (if it is a paper presentation)</li> </ol>
授業の目的と概要-1	アジア・アフリカ研究の現状と分析B 1 Current Status and Analysis of Asian and African Studies B1
授業の目的と概要-2	アジア・アフリカ研究の現状と分析B 2 Current Status and Analysis of Asian and African Studies B2
授業の目的と概要-3	アジア・アフリカ研究の現状と分析B 3 Current Status and Analysis of Asian and African Studies B3
授業の目的と概要-4	アジア・アフリカ研究の現状と分析B 4 Current Status and Analysis of Asian and African Studies B4
授業の目的と概要-5	アジア・アフリカ研究の現状と分析B 5 Current Status and Analysis of Asian and African Studies B5
授業の目的と概要-6	アジア・アフリカ研究の現状と分析B 6 Current Status and Analysis of Asian and African Studies B6
授業の目的と概要-7	アジア・アフリカ研究の現状と分析B 7 Current Status and Analysis of Asian and African Studies B7
授業の目的と概要-8	アジア・アフリカ研究の現状と分析B 8 Current Status and Analysis of Asian and African Studies B8
授業の目的と概要-9	アジア・アフリカ研究の現状と分析B 9 Current Status and Analysis of Asian and African Studies B9

授業の目的と概要-10	アジア・アフリカ研究の現状と分析B10 Current Status and Analysis of Asian and African Studies B10
授業の目的と概要-11	アジア・アフリカ研究の現状と分析B11 Current Status and Analysis of Asian and African Studies B11
授業の目的と概要-12	アジア・アフリカ研究の現状と分析B12 Current Status and Analysis of Asian and African Studies B12
授業の目的と概要-13	アジア・アフリカ研究の現状と分析B13 Current Status and Analysis of Asian and African Studies B13
授業の目的と概要-14	アジア・アフリカ研究の現状と分析B14 Current Status and Analysis of Asian and African Studies B14
授業の目的と概要-15	アジア・アフリカ研究の現状と分析B15 Current Status and Analysis of Asian and African Studies B15
授業の目的と概要-試験	学生の研究報告とこれに関する討論（質疑・応答）から以下を評価する。 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法 2) レジユメの作成、発表の方法、討議の仕方 3) 論文（論文発表である場合） The following will be evaluated from student research reports and related discussions (questions and answers). 1) How to analyze and critically examine research materials 2) Resume preparation, presentation methods, and discussion methods 3) Thesis (if it is a paper presentation)
実務・実践的授業	
成績評価方法	発表・報告と討論の内容によって、総合的に評価する。 We will evaluate the presentations and discussions at seminars comprehensively.
教科書および参考書	資料は発表者が作成・配布する。参考書は特別研究の中で随時指示する。 Student presenters are required to prepare and distribute their own handouts and reference materials. We will designate related references whenever necessary.
授業時間外学修	レジユメの準備、討論の内容整理が必須。 Preparation of resumes and organization of discussions are essential.
その他	とくになし。 Nothing in particular.
更新日付	2024/02/21 12:05:42
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	現代日本メディア・ジェンダー研究特別講義B
曜日・講時	木曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	妙木 忍
科目ナンバリング	KIC-ARS709J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	現代日本におけるメディア・ジェンダー研究の視座 Perspectives on Media and Gender Studies in Contemporary Japan
授業の目的と概要	現代日本におけるメディア・ジェンダー研究の研究動向を踏まえつつ、発表や討論を通してこれらの分野の視座を学ぶ。 The purpose of this course is to help students acquire perspectives on media and gender studies in contemporary Japan through lectures, presentations and discussions, while also taking into account research trends in these fields.
学修の到達目標	現代日本におけるメディア・ジェンダー研究の方法論を習得する。 This course is designed to help students acquire the methodology of media and gender studies in contemporary Japan.
授業の目的と概要-授業計画	指導教員の指導のもとで、自身の研究を進めていく。 This course aims to help students advance their own research under the guidance of a supervisor.
授業の目的と概要-1	オリエンテーション Orientation
授業の目的と概要-2	発表および討論 (1) Presentation and discussion (1)
授業の目的と概要-3	発表および討論 (2) Presentation and discussion (2)
授業の目的と概要-4	発表および討論 (3) Presentation and discussion (3)
授業の目的と概要-5	発表および討論 (4) Presentation and discussion (4)
授業の目的と概要-6	発表および討論 (5) Presentation and discussion (5)
授業の目的と概要-7	発表および討論 (6) Presentation and discussion (6)
授業の目的と概要-8	発表および討論 (7) Presentation and discussion (7)
授業の目的と概要-9	発表および討論 (8) Presentation and discussion (8)
授業の目的と概要-10	発表および討論 (9) Presentation and discussion (9)

授業の目的と概要-11	発表および討論 (10) Presentation and discussion (10)
授業の目的と概要-12	発表および討論 (11) Presentation and discussion (11)
授業の目的と概要-13	発表および討論 (12) Presentation and discussion (12)
授業の目的と概要-14	発表および討論 (13) Presentation and discussion (13)
授業の目的と概要-15	発表および討論 (14) Presentation and discussion (14)
授業の目的と概要-試験	試験はおこなわない。 No examination
実務・実践的授業	
成績評価方法	発表と討論の内容に基づいて総合的に評価する。 Participants will be comprehensively evaluated based on the progress of their research and the content of their discussions.
教科書および参考書	参考文献は適宜紹介する。 Reference materials will be introduced as necessary.
授業時間外学修	発表の準備をする。また、授業までに他の発表者のレジュメを読んでくる。 Preparation for presentations will be required. Students are also required to read the documents of other presenters before their presentation is given.
その他	
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	国際政治経済学特別講義B
曜日・講時	木曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC）
単位数	2単位
担当教員	大窪 和明
科目ナンバリング	KIC-IPE703J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	国際政治経済関係研究の特別講義 B Special lectures on International Politics and Economics B
授業の目的と概要	国際政治関係、国際経済関係に関する学術研究のフロンティアを紹介する。 This course is aimed at surveying previous works and sharing information on the latest research on students' subjects.
学修の到達目標	国際政治関係、国際経済関係の先端的な研究を分析し、受講生各自が自らの研究の位置付けを明確にすることで、各自の研究の幅を拡張し、内容を深化する。 Students are expected to analyze the latest research on International Politics and Economics, and to situate their works in the context of previous literatures of their research subjects.
授業の目的と概要-授業計画	講義、輪読、ディスカッションなど Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-1	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-2	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-3	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-4	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-5	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-6	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-7	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-8	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-9	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-10	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students

授業の目的と概要-11	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-12	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-13	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-14	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-15	講義、実習、輪読など Presentations and discussions by lecturers and students
授業の目的と概要-試験	なし。 N. A.
実務・実践的授業	
成績評価方法	当該分野の先行研究のサーヴェイ、および研究の進捗状況 Students' survey on the existing literature and the progress of students' research.
教科書および参考書	なし。 N. A.
授業時間外学修	関連書籍と論文の精読 The survey of existing literature on students' research subjects.
その他	特になし。 N. A.
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	言語科学研究特別講義B
曜日・講時	木曜6限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (DC)
単位数	2単位
担当教員	中本 武志
科目ナンバリング	KIC-LIN703J
使用言語	日本語
メディア授業科目	
授業題目	言語科学における諸課題 (2) Specific research issues in Language Sciences (2)
授業の目的と概要	<p>授業担当者の専門分野に関して講義や受講者による文献紹介などを含めた討議を行う。これにより、当該専門分野における高度な知識を得ることを目的とする。 In this course, the students will get a deep understanding of the topics selected by the instructors. Each session will consist of a lecture by an instructor and/or oral presentations of relevant literature by one or a couple of students, followed by class discussion on the particular topic of the day.</p>
学修の到達目標	<p>受講者はこの授業を通して、扱われる専門分野についてのより高度な知識を得るとともに、それを自身の研究に役立てる。 In this course, the students will get a deep understanding of the topics treated in each session, so that they can incorporate the obtained knowledge and insight into their own research.</p>
授業の目的と概要-授業計画	<p>学期のはじめにスケジュールを発表する。 The schedule and the main topics of the course will be announced at the beginning of the course.</p>
授業の目的と概要-1	<p>講師1による講義とそれに関する討議 (1) Lecture 1 by the 1st instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-2	<p>講師1による講義とそれに関する討議 (2) Lecture 2 by the 1st instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-3	<p>講師1による講義とそれに関する討議 (3) Lecture 3 by the 1st instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-4	<p>講師1による講義とそれに関する討議 (4) Lecture 4 by the 1st instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-5	<p>講師1による講義とそれに関する討議 (5) Lecture 5 by the 1st instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-6	<p>講師2による講義とそれに関する討議 (1) Lecture 1 by the 2nd instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-7	<p>講師2による講義とそれに関する討議 (2) Lecture 2 by the 2nd instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-8	<p>講師2による講義とそれに関する討議 (3) Lecture 3 by the 2nd instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-9	<p>講師2による講義とそれに関する討議 (4) Lecture 4 by the 2nd instructor and discussion on the topic.</p>
授業の目的と概要-10	<p>講師2による講義とそれに関する討議 (5) Lecture 5 by the 2nd instructor and discussion on the topic.</p>

授業の目的と概要-11	講師3による講義とそれに関する討論(1) Lecture 1 by the 3rd instructor and discussion on the topic.
授業の目的と概要-12	講師3による講義とそれに関する討論(2) Lecture 2 by the 3rd instructor and discussion on the topic.
授業の目的と概要-13	講師3による講義とそれに関する討論(3) Lecture 3 by the 3rd instructor and discussion on the topic.
授業の目的と概要-14	講師3による講義とそれに関する討論(4) Lecture 4 by the 3rd instructor and discussion on the topic.
授業の目的と概要-15	講師3による講義とそれに関する討論(5) Lecture 5 by the 3rd instructor and discussion on the topic.
授業の目的と概要-試験	成績評価は各講師の各学生に対する評価を総合して決定されるが、各講師の評価が試験によるかそれ以外の方法によるかは各講師より発表される。 Evaluation will be determined by summing up the grades given by the instructors, which will be based on class attendance, the participation in the discussion, assigned reports, and exams. Details will be announced at the beginning of the course.
実務・実践的授業	
成績評価方法	出席を含めた授業中の討議への参加や教員から与えられた課題に関する成果を総合的に評価する。 Evaluation will be determined by adding the grades given by the instructors, which will be based on class attendance, participation in the discussion, assigned reports, and/or exams. Details will be announced at the beginning of the course.
教科書および参考書	各講師が必要に応じて授業中に指示する。 Necessary literature will be designated in the course by each instructor.
授業時間外学修	各講師が必要に応じて授業中に指示する。 Necessary task or work will be designated in the course by each instructor.
その他	なし None
更新日付	2026/02/24 12:02:53
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。	

科目名	日本宗教・思想史研究特別講義B
曜日・講時	金曜4限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC）
単位数	2単位
担当教員	KLAUTAU ORION、GODART GERARD RAINIER CLINTON
科目ナンバリング	
使用言語	日本語／英語
メディア授業科目	
授業題目	日本宗教・思想史研究の方法と諸問題B
授業の目的と概要	日本宗教・思想史研究に関わる様々な問題をめぐって、相互討論によって研究の視点や方法を深めていく。受講生自身の草稿に対してピアレビューを行うとともに、日本宗教・思想史研究をめぐる新たな研究動向や視点を積極的に紹介する。
学修の到達目標	日本宗教及び思想史に関する自主的な研究を行うスキルを習得する。
授業の目的と概要-授業計画	発表者はあらかじめ期日までにレジュメ・ハンドアウトを参加者全員に配布し、これにもとづいて当日発表する。その後全員で質疑及び意見交換をおこなう。
授業の目的と概要-1	オリエンテーション
授業の目的と概要-2	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-3	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-4	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-5	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-6	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-7	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-8	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-9	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-10	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議

授業の目的と概要-11	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-12	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-13	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-14	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-15	日本宗教・思想史研究の諸問題・発表・討議
授業の目的と概要-試験	試験は行わない。
実務・実践的授業	
成績評価方法	試験は行わない。ただし、各自のレジュメ、発表、討論の受け答えをもとに、総合的に評価する
教科書および参考書	-
授業時間外学修	-
その他	授業の具体的な進行方法については最初のガイダンスの際に説明する。 ハンドアウト/レジュメに関しては、発表する週の水曜日までに提出すること。
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	日本宗教・思想史研究特別演習B
曜日・講時	金曜5限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC）
単位数	2単位
担当教員	KLAUTAU ORION、GODART GERARD RAINIER CLINTON
科目ナンバリング	
使用言語	日本語／英語
メディア授業科目	
授業題目	日本宗教・思想史研究の実践（2）
授業の目的と概要	受講者が各自の研究テーマとその進度に応じて発表を行い、参加者全員による討議を行う。研究の進行に必要とされる方法論や発表方法について議論が行われる。
学修の到達目標	日本宗教及び思想史に関する自主的な研究を行うスキルを習得する。
授業の目的と概要-授業計画	発表者はあらかじめ期日までにレジュメ・ハンドアウトを参加者全員に配布し、これにもとづいて当日発表する。その後全員で質疑及び意見交換をおこなう。
授業の目的と概要-1	ガイダンス
授業の目的と概要-2	発表および討議
授業の目的と概要-3	発表および討議
授業の目的と概要-4	発表および討議
授業の目的と概要-5	発表および討議
授業の目的と概要-6	発表および討議
授業の目的と概要-7	発表および討議
授業の目的と概要-8	発表および討議
授業の目的と概要-9	発表および討議
授業の目的と概要-10	発表および討議

授業の目的と概要-11	発表および討議
授業の目的と概要-12	発表および討議
授業の目的と概要-13	発表および討議
授業の目的と概要-14	発表および討議
授業の目的と概要-15	発表および討議
授業の目的と概要-試験	試験は行わない。
実務・実践的授業	
成績評価方法	試験は行わない。ただし、各自のレジュメ、発表、討論の受け答えをもとに、総合的に評価する。
教科書および参考書	-
授業時間外学修	-
その他	授業の具体的な進行方法については最初のガイダンスの際に説明する。 発表レジュメ・資料は発表の週の水曜日までに提出、配布すること。すべての出席者の活発な議論が求められる。
更新日付	
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

科目名	日本宗教・思想史研究特別研究B
曜日・講時	金曜6限
科目群	大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC）
単位数	2単位
担当教員	KLAUTAU ORION、GODART GERARD RAINIER CLINTON
科目ナンバリング	
使用言語	日本語／英語
メディア授業科目	
授業題目	日本宗教・思想史研究のスキルの展開
授業の目的と概要	受講者が指導教員の指導を受けながら日本宗教・思想史研究にかかわる各自の研究を行うためのスキルを獲得する。
学修の到達目標	日本宗教及び思想史に関する自主的な研究を行うスキルを習得する。
授業の目的と概要-授業計画	受講者が指導教員と打ち合わせたうえで学会発表、学術雑誌への投稿などの成果発表に関する必要なスキル及びその成果を確認し、指導を受けながら目標を達成してゆく。
授業の目的と概要-1	ガイダンス
授業の目的と概要-2	研究成果発表の日程確認、スケジュール設定。
授業の目的と概要-3	口頭発表のスキル
授業の目的と概要-4	資料分析 1
授業の目的と概要-5	資料分析 2
授業の目的と概要-6	先行研究の整理、およびリテラシー、研究倫理の確認
授業の目的と概要-7	論文、口頭発表に関する発展的概論
授業の目的と概要-8	制作中の論文における研究倫理の再確認
授業の目的と概要-9	序論に関する一般的注意
授業の目的と概要-10	発表のスキル2

授業の目的と概要-11	本論部の展開法 1
授業の目的と概要-12	本論部の展開法 2
授業の目的と概要-13	結論作成に関する注意
授業の目的と概要-14	注釈のつけ方に関する注意と確認
授業の目的と概要-15	成果確認、反省
授業の目的と概要-試験	-
実務・実践的授業	
成績評価方法	試験は行わない。論文及び発表をもって評価する。
教科書および参考書	授業で随時提示する
授業時間外学修	*
その他	指導教員への積極的なアプローチを歓迎する。
更新日付	
<small>1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。</small>	